

Passo a Passo

目 次

1 はじめに「資格を獲得すること」	3
——専修大学教職課程協議会委員長 文学部教授 亀井 明德	
2 特別寄稿「近頃の教育界の諸問題について考えること」	4
——専修大学文学部教授 高橋 貢	
3 レドモンド教育事情	5
——専修大学ネットワーク情報学部 助教授 砂原 由和	
4 教職課程	9
5 司書・司書教諭課程	25
6 学芸員課程	31
7 データ編	37

資格を獲得すること

専修大学教職課程協議会委員長 文学部 教授 亀井 明德

教 職・司書・司書教諭・学芸員の資格を獲得し、それぞれの職につくことは、容易ではない。大学で学んだことが直接役立つような職種は、きわめて少ないといえる。しかし、それは普通のことであり、専門職のポストがそんなに簡単に獲得できないのは、いつの世でもそれほど変わらない難関である。そのなかであって、本大学の学生は、よく努力されて、他大学の卒業生に伍して、毎年それぞれの難関を突破している人が出ていることに、私たち教員は誇りに思っている。

資格課程の教員は、学生の就職に人一倍つよい関心を持ち、できることならば万難を排して目指す職につけてやりたいと思っている。しかし、現実には、資格は獲得したものの、専門職につくことができず、別の道に進む卒業生が多いことにも眼を避けることはできない。資格はとったけれども、役に立たなかったと嘆き、教員のなかには就職が難しい資格などとても意味がない、というような思慮の浅い発言も耳にはいる。

大学において、資格を獲得するということや、少し考えを広げると、大学において一つの専攻にしぼって学ぶという事は、どういう意味があるのであろうか。

ヨーロッパやアメリカの政界や財界など、社会の第一線で活躍している人々の経歴のなかに、大学のと看、歴史学や哲学を専攻科目とした人が多いのは、経済・法律・経営学などの専攻が多い日本的な状況からみると不思議にみえる。おそらく、実業界に入ってから、努力をしてその分野の、いわゆるすぐに役立つ知識を獲得したのであろうが、その役立つ知識だけでは、第一線で活躍することなど到底できないことは自明である。こうした人々は、多方面にわたる教養が豊かであり、いずれも個性的であり、その個性を形成しているのが、大学時代に学んだ、学問の根底にある思想、人生への取り組み方、考えかた、に裏付けられていると考えられる。

teacher、librarian、curatorの資格を獲得した学生は、他の人にはない“教育について、図書館について、博物館について”の専門的な知識を獲得したことは当然であるが、その根底にある思考方法の一端に辿りつけたか否か、それが胎生されつつあるか否かが課題とされているのである。

たとえ専門職につけなくとも、それはpaper driverと同一視するような性質でない。たとえpaperであったとしても、誇るべき資格を獲得し、これからの人生のいろいろな局面において、優れた考え方の指針を獲得したといえる。これが、学問を学ぶということであり、単なる知識の獲得は似非学問にすぎない。

私はそのように考えて、毎日、学問と格闘している。

近頃の教育界の諸問題について考えること

文学部 教授 高橋 貢

この4月（平成14年度、2002年）以来、小学校から高等学校にかけてのカリキュラム改定にともなって、教育界は週5日制、総合学習等、新制度導入の対応に揺れています。テレビ、新聞も、土曜日が休日になったために、児童、生徒をどのように過ごさせるのか、ゆとりがあるのはよいが、学力低下に結びつかないか、等、様々な問題を取り上げています。また、来年度より中学校教員免許状取得希望者にとって、教育実習期間がこれまでの2週間から3、ないし4週間に延長になるために、各大学の関係者だけでなく、都道府県教育委員会や実習生受け入れ校側等、その対応に追われています。

国語科教育に限りますと、小、中学校（高等学校は来年度から）の指導要領が、従来の表現、理解の2領域から「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域に改定されました。この改定は一言でいうならば、話しことは重視によります。

これまでの国語科の授業は、近世の寺子屋の頃に言われていた「読み、書き、そろばん」の延長線上にあるものでした。文学的文章の読解、特に訓話注釈に重きを置きがちでした。近年、文学的文章の読みよりは説明的、論理的文章の読みの重視へ、読むことよりは書くことの重視への傾向はみられますが、基本的には話しことば（音声言語）よりは書きことば（文字言語）重視の傾向には変わりはありませんでした。これまでも小学校低学年で話しことばの指導が行われており、中学、高等学校でも様々な話し方への指導—対話、会話、インタビュー、司会、発表、討議、討論、スピーチ、等—及び聞き方の指導はありましたが、指

導要領の最初に「話すこと・聞くこと」の領域を置き、しかも「伝え合う力」に重きを置いたところに特色があります。これまでも指導要領の目標の一つに「生活に必要な国語の能力」を高めることにあって、話しことば重視はみられましたが、今日の社会が情報化への傾向を強くしておりますので、その傾向に対応する改定、即ち実用的な話しことば重視の姿勢ということができます。

今回の指導要領の改定は、国語科教育だけでなく、他の教育界の弱点を補っています。よく日本の英語教育は文章の訳や文法中心で、会話には役に立たないと言われてきました。この弱点は英語教育だけのものではなく、先に述べたような近世から続く寺子屋方式の指導方法による弱点で、日本教育の基本的な問題と考えます。もちろん文章の読みを軽視してよいというわけではありませんし、新しい指導要領にも「書くこと」「読むこと」の領域はありますが、話しことば重視の姿勢はこれからの社会生活の中で活きた国語を学ばせるという点からみて、歓迎してよいと思います。

私は教育実習の訪問指導で実習校を訪れた時に、中学校、高等学校の先生方と話す機会がありましたが、国語の授業を総合学習とどのように関わらせていくのか、等、これからの教育についての様々な問題や苦心を聞くことができ、貴重でした。それらの一つに進学の問題があります。センター入試をはじめ、入学試験の出題傾向が従来のままならば、新しい教育を目指しても、進学校や上級学年の場合、指導の方法や勉強の仕方、内容は変わらないのではないか、ということです。教育の問題は大学

入試を含めて考えることも必要です。

今年の7月24日（水）の朝日新聞の投書欄に、総合学習が導入された今日、教師は視野を広げなければいけない。そのためには夏休みが必要、との意見が載っていました。私も先生方がよりよい教育をするために、それぞれが設けた課題を目標に勉強しなければいけない。そのためには研究日や夏休みは必要と考えます。中学校、高等学校の教員は研究職ではありませんが、教員一人一人に進歩がなければよりよい教育はできないと思います。与えられたことをこなしているだけならば夏休みは不要でしょうが、そうであってはけません。

以前、私の学校時代の同級生が外国に社用で行った時のこと、その国の人々から日本の文化や文学を質問されて困ったことがあると言っていました。外国の人の中には日本の人々以上に日本を勉強している場合があります。外国の文化、文学を理解する上からも、日本独自のものを知ることが大切です。

この4月以来、教育界には様々な問題が起こっており、放送、新聞でもとり上げられております。社会問題の一つとなっております。それらの問題は教育関係者がまずとり上げ、考えていかないといいませんが、それとともに社会全体で考え、解決することが日本全体をより良くすることにつながります。また大学の様々な組織、編成（学部、学科、授業科目等）についても、社会や教育界の変化に対応して将来変わっていくのではないかと想像します。

はじめに

2001年4月から2002年3月までの一年間、私は本学の在外研究員として、アメリカ合衆国ワシントン州のワシントン大学教育学部に滞在する機会を得た。研究の主目的は教育哲学に関する文献の収集であったが、実のところ滞在期間中に最も刺激を受けたのは、同行した子どもたち（8歳の長男と4歳の長女）の日常生活を通して垣間見た現地の教育事情だった。以下に記すのは、その中で特に印象に残ったことがらのスケッチである。



シアトル日本語補習学校の子どもたち

二つの学校

私たち一家が一年間の仮住まいを定めたのは、シアトルから車で20分ほど東へ行ったところにある、レドモンドという町だった。この町はマイクロソフト本社のある町としても有名で、広大な自然の中に、マイクロソフトの繁栄とともに開発された閑静な住宅地が広がっていた。私たち一家はその一角にコンドミニアムを借り、子どもたちを学校や幼稚園へと通わせることになった。

今回の渡米が決まった当初、私の中では、またとないチャンスなのだから息子を現地の学校へ通わせたいという気持ちと、帰国後のことを考えて日本人学校に通わせた方がいいのではないかという気持ちが、相半ばしていた。しかし、滞在先として決まったシアトルのことを調べると、このあたりに全日制の日本人学校はなく、あるのは現地校が休みの土曜日だけ開講される「日本語補習学校」だということがわかった。息子は、期せずして日米両方の学校に通える（通わされる）ことになったのである。

それにしても、二つの学校に通うというのはかなり大変なことだ。

日本で過ごした小学校一年生の間は、隔週で土曜日が休みだった上に、ほとんどの日が午前中に、遅くとも午後2時には家に帰っていた。それに対して、現地校は午後3時までである。（スクールバスで家に帰ってくるのは、午後3時半ごろ）そして、土曜日は丸一日、日本語補習学校で過ごすことになる。

いくら子どもの環境適応力が高いとはいえ、そのような生活を急に始めるのは無理だと思い、とりあえずは日本語の通じる、日本語補習学校だけへの通学を始めさせた。

日本語補習学校

シアトル日本語補習学校（以下、「補習校」と略す）は、シアトルに進出している日系企業の団体が運営母体となって1971年に開設した学校で、幼稚園部から高等学校部までを擁する、かなり大きな規模の学校である。息子の編入した小学部は児童総数約300名（各学年約50名）で、各学年は3クラスからなっていた。

これほどの規模の学校であるにもかかわらず、この補習校は自らの校舎を持たず、幼小部と中高部

に分かれて、現地校の校舎を借りて授業を行っていた。

補習校へ通ってくる子どもたちは、大きく分けて二つのグループに分けることができる。一つは、我々のように、日本に帰ることを前提としている家族の子ども。もう一つは、アメリカに永住することになっているが、何らかの理由で日本語を忘れないようにするために補習校に通ってくる子どもたちである。

補習校がこの二つのグループに対応した形でクラス編成を行うようになったのは、偶然にも、私たちが渡米した2001年4月からだった。編入手続きの時の面接で、息子の入るクラスを「日本語がぺらぺらのお子さんを対象とするクラスです」と紹介されたとき、ここでは、日本語も外国語の一つなのだと再認識した。

事実、その後子どもを通してつきあいの始まった家族の中には、両親がともに日本育ちの日本人であるにもかかわらず、子どもが次第に日本語を忘れていくことに危機感を覚えているという方がおられた。一日の大半を英語環境の中で生活していると、咄嗟にでく

るのは英語になってしまうらしい。英語の苦手な私からみれば、羨ましくも思えるが、ご本人（特にご両親）にしてみれば、深刻な問題であろう。そのような子どもにとって、補習校は日本語維持のための貴重な環境になっている。

もちろん、補習校の授業は国語だけではない。小学部の場合は、国語に算数と生活科（中学年以上は社会科）を加えた3教科があり、これが一日6時間の時間割に割り当てられる。たとえば、私たちが滞在していた年の前期の時間割は、1時間目から6時間目まで順に、「国語、国語、算数、算数、国語、生活」となっていた。

8歳の子どもにとっては、かなりきつい時間割である。さらに、宿題がたっぷり1週間分出されるのだから、子どもの負担は相当なものだったようだ。毎週金曜日（補習校の前日）が辛いという話をよく聞いた。

しかしその一方、日本の学校のゆっくりとした（冗長な？）学校生活よりも、補習校のような短期集中型の方がいいという意見も多かった。これらはもちろん、子ども自身の意見である。

補習校は、学習指導の目標として「国語・算数（数学）においては、文部科学省の学習指導要領に定められた目標の達成を目指す」と掲げている。確かに子どもたちの様子を見てみると、小学校低学年の国語と算数に関しては、週に一回の登校でも日本の学習指導要領が定めた目標を達成することが可能なのだと思えた。もちろんそのためには、家庭の協力（1週間分の宿題をなんとかやらせること）が必要不可欠ではあるが。

また、週に一日しか登校しなければ子ども同士のつきあいが希薄

になるのではないかと思っていたが、そんなことは全くなかった。むしろ、日本での友達以上に親密になり、家族同士のつき合いにまで発展することが多かった。

その背景には、多くの家庭の環境が似通っていたことや、補習校が日本語の通じる貴重なコミュニティになっていたこと、さらに、毎週、必ず子どもを車で送り迎えせねばならなかった（親同士が毎週顔を合わせていた）ことなどいくつもの条件が重なっていたことは確かである。しかし、条件さえ整えば週一日の登校でも十分な教育効果が期待できるのだということ、新鮮な驚きだった。

レドモンドの人びと

私が滞在したレドモンド一帯は、どちらを見ても、またどこまで行っても、景色のすばらしい所だった。美しい自然に囲まれた町並みも美しく、家々の芝生はきれいに刈り込まれ、道路にはゴミ一つ落ちていない。

しかし何よりも美しく思えたのは、そこで生活している人々のマナーだった。道路にゴミを捨てる人がいないのはもちろん、交通マナーもきっちりと守られていた。横断歩道を渡ろうと立ち止まると、間違いなく車は止まった。

アメリカで過ごした一年間、暴走族はもちろんのこと、暴走族風の車両を見かけたことは一度もなかった。古くからの住人に聞いてみたが、私たちの住んでいた一帯には、そのような者は存在しないということだっ

た。

町で見かける若者は様々な格好をしていたが、少なくとも、他人に対して威圧感を与えるような格好や立ち居振る舞いをする若者はいなかった。ショッピングセンターで見かける若者や子どもたちは、みな楽しそうにしていたが、だからといって悪ふざけをしていたことは一度もなかった。

すっきりと晴れわたった日曜日には、通りかかる車に「Car Wash!」と書いた紙切れを振りかざし、洗車で小遣い稼ぎをしている中学生ぐらいの子どもたちのグループをよく見かけた。あんな健康的な子どもたちの姿を東京で見かけることは、ずいぶん少なくなったような気がした。

レドモンドで出会った人々のことをあえて言葉で形容するなら、大人は大人らしく、子どもは子どもらしかった、ということになるだろうか。この地で育った人びとの目に東京がどう映っているのだろうかと思うと、恥ずかしくなってしまった。

Norman Rockwell

渡米からほぼひと月がたった4月30日、息子は予定通り現地校への通学を始めた。息子の通う小学



Norman Rockwellの校舎

校は、Norman Rockwell という名前だったが、この名前は、ある有名な画家の名前に由来しているということを後で知った。この学区の他の小学校には、Albert Einstein とか、Helen Keller といった名前が付いていた。

また、それぞれの学校にはマスコットがあり、それが学校のマークにもなっている。Norman Rockwell の場合は、Rockwell Beagle という名前の可愛い犬がマスコットになっていて、校舎の正面にもこの犬が描かれていた。この絵ひとつによって、学校の雰囲気は随分と変わる。帰国後、近くにある公立の小学校の校舎を改めて見ると、その殺風景な外壁がとても気になった。

さらに日本との隔たりを感じさせるのは、現地校の校舎がすべて平屋なことである。これはもちろん、敷地に余裕があるアメリカだからこそできることなのだろう。緑豊かな広大な敷地に広がる低層の建物は、アメリカの豊かさを象徴しているかのようだった。

学校の敷地内にかなり広い駐車場が完備しているのも、日本では考えられないことだった。これらの駐車場はもちろん教職員や来客のためでもあるが、小学校では何よりも生徒の親のためのものである。スクールバスを利用しない子どもは、親が車で送り迎えをするのが基本であるから、学校には必ず、子どもの送迎用のレーンと駐車場が用意されている。それでも、PTAのパーティーなどがあると、用意してある駐車場だけでは足りなくなり、Norman Rockwellでは周囲の道路に車があふれ出していた。

さて、息子はこの学校に、英語がまったく分からない状態で通い

始めることになった。そんな状態でも、アメリカの学校は受け入れてくれると事前に聞いてはいたが、あまりにもあっさりと受け入れてくれたことに少々驚いた。

我々を迎えてくれた、いかにも優しくな初老の女性のホフマン先生は、息子の肩をしっかりと抱きしめ、ニコニコした顔でなにやら息子に話しかけ（私には先生が何を言われたのか聞こえなかったが、もちろん話しかけられた当の息子も、何を言われたのかは分かっていない）さっさと息子を級友たちの待つ教室に連れて行ってしまった。

しかし、むろん息子は授業の内容など全く理解できず、教室の中では、ただただ時間が過ぎていくのを待っていたらしい。その日、息子が持ち帰ったノートを見ると、暇つぶしのために思い付いたと思われる、当時興味を持っていた漢字を使った自作のパズルや、家に帰ってから作ろうと思ったのであろう、LEGOの設計図らしきものだけが描かれていた。そんなノートを見ていると、さぞかし孤独で心細かったのではなかろうかと、息子がかわいそうに思えてきた。

現地校に通い始めて数日たったある日、学校から帰った息子が「こんなものをもらったよ」といって、数十枚の大きめのカードを綴じたものをカバンから取り出した。よく見るとそれは、クラスメートたち手づくりの「単語帳」だった。たとえばその一枚目には、本の絵が描いてあり、その下に「Book」と書いてある。そんなカードを一



Norman Rockwell の授業風景

人数枚ずつ作ってくれたらしい。

もちろん、この「単語帳」の作成作業それ自体は現地の子どもたちにとっての、単語綴りの練習だったのだろうが、その過程の中で息子の存在が話題の中心に据えられたことは間違いない。そこで交わされた会話の内容こそ理解できなかった息子も、自分が主人公だという雰囲気は感じていたようだった。この単語帳を見て私は、ホフマン先生の配慮に心から感謝するとともに、息子は大丈夫だと確信した。

Norman Rockwell が息子に対して差し伸べてくれた援助は、もちろんこれだけではなかった。英語を母国語としない子どものための、ESL (English as Second Language) クラスがこの学校にはあり、息子はほぼ毎日、数時間をこのクラスで過ごしていた。ESLは、アメリカの学校ではごく一般的な制度であるが、息子がこのクラスで個人教授を受けていることを知ったときには驚いた。

さらに驚いたのは、現地校にも少し慣れてきた頃に、息子が「このごろ、僕にだけ算数を教えてくれる先生がいる」と話したときだった。どうしてそんな先生がいるのか、その時は分からなかったが、

PTAの集まりに出て、その謎は解けた。息子の同級生のお父さんが、ボランティアで教えてくれていたのだ。

通常、リーディングの時間など、息子がクラスについて行くのが大変そうな時間はESLへ行くことになっていたが、それでもなお、息子がつまらなそうな時間があつたのだろう。言葉にあまり関係のない算数を、同級生のお父さんがボランティアで教えてくれたのである。そこには、息子の(というより、日本の小学生の)得意な算数を通じて、少しでも能動的に英語を使わせようという意図もあつたのだと思う。Norman Rockwellの懐の深さと暖かさが身にしみた。

9月11日

同時多発テロが発生したのは、シアトル時間の午前5時だった。朝起きると、テレビは今まさに崩壊するニューヨークのワールドセンタービルを映し出していた。

この日も、いつも通りの時間に現地校に登校した息子は、いつも通りの時間に2枚のプリントを持って帰ってきた。

一枚は学区の教育長からのもので、「今日一日は、可能な限り普通どおりの学校活動を維持した。明日も学校は普通どおりの活動を続ける予定である」という文章に続き、このような事態に際して子どもにかけられる言葉が見つからなければ子どもを抱きしめてください、といった教育心理学学会からのアドバイスが9項目にわたって書かれていた。

もう一枚は学校長からのもので、「私の考えと行動をみなさんと分かち合いたい」という書き出しで始まり、その日の朝は学校のスタッフを集め、子どもたちの中にはワ

ールドセンタービルやペンタゴンに勤務している親類縁者のいる子どもがいるかもしれないことを心にとめておくように伝えたこと、また教員に対しては、生徒の中から肌の色や人種の違う子どもを傷つけるような発言が出た場合の心構えをしておくように話した、といったことが書かれていた。

14日はNational Day of Mourningとなり、全米各地で追悼集会が行われた。この日、米国議会は武力行使の容認を決議し、アメリカは事実上の戦時体制に入った。学校から帰ってきた息子は、帰りのスクールバスが道を間違えたと話した。いつも陽気な運転手のマイクさんも動揺しているのだろうかと気になった。

この頃から、街の中に星条旗が目立ちだした。星条旗を掲げて走る乗用車も次第に増えていった。

その目的は分からないが、大きな星条旗を運んでいる、10人程の子どものグループも見かけた。彼らの横を通過していく車の多くは、クラクションを鳴らし、彼らにエールを送っていた。よほどのことがないとクラクションを鳴らすことのないこのあたりの人々が鳴らすクラクションは、星条旗に対する格別の思いを表しているかのようだった。

テレビからは、民族の異なる、肌の色の違う人々が次々とあらわれ、「I am an American.」と呼びかけるCMが流れ始めた。

そして17日、娘の幼稚園(教会付属の私立の幼稚園)から、一通のプリントが届いた。"emergency pack"を用意してくれという。そのプリントには、用意すべき物を、懐中電灯、防寒具、ミネラルウォーター...と列挙したリストが付いていたが、その中に、思わず考え

込んでしまった物がある。家族の写真と、家族から子どもに宛てた手紙。

娘はまだ4才。字は読めない。受け取った手紙を娘が自らの力で読むのは、数年先のことだ。そんなことを考えながらこの手紙を書くのは、とてもつらい作業だった。

じつは春にも、息子の小学校から同じような用意をしてほしいという依頼があつた。しかしこの時期に、週に3日しか登園日のない幼稚園からまでこんな依頼があつたことは、驚きだった。

10月に入ると、米英軍によるアフガニスタン空爆が始まり、炭疽菌事件が発生した。さらに米国政府からは、次のテロにむけての警告が何度も発せられ、在シアトル日本総領事館からは在留邦人に警戒を呼びかける電子メールが頻繁に配信されるようになった。レドモンドの人びとも、どこなく緊張しているような気がした。

しかし、12月に入る頃から次第に町も落ち着きを取りもどし、年の瀬が近づくとクリスマス一色になっていった。私たち一家も、どうにか無事に「戦時下」をくぐり抜けることができた。

だがしかし、9月以降に経験した様々なことがらは、いまだに未消化なままで私の中に残っている。そこにはたぶん、教育の本質に関わる重要なことがらが含まれているような気がする。今後、私自身の思索を深める過程の中で、これらのことがらに少しずつ向き合っていきたいと思っている。

教 職 課 程

Index

1	スクールカウンセラーの仕事 10 ——先生方との「協働」がキーワード 経済学部 講師 青木 みのり
2	卒業生から 11
3	教員採用試験体験記 15
4	教育実習生から 18

スクールカウンセラーの仕事 —先生方との「協働」がキーワード—

経済学部 講師 青木みのり

わ たしはいくつかの公立中学校でスクールカウンセラーとして勤務して来ました。さて、中学校のスクールカウンセラーというと、皆さんはどんなイメージをもたれるのでしょうか？それを理解していただくために、スクールカウンセラーの1日の仕事の流れを大まかに追って説明しますね。

まず、私は午後の勤務でしたから、12時半に出勤します。朝が弱い私には大変ありがたい勤務体制でした。そして、職員室でお弁当を食べながら、余裕があれば先生方とお話をします。職員室にも机を置いていただいていたんですね。このときの会話は、何気ないようできて大切です。「生徒の〇〇が最近元気がない」とか、情報が入ってきますので。そして時にははっきりと、「**が**相談したいことがある」というので、昼休みに相談室へ行かせましょうか？」と依頼があることもあります。

そのようにして昼食時間が終わり、昼休みから、私の相談活動が始まります。スクールカウンセラー専用の相談室がありましたので、そこの鍵を開け、昼休みには開放状態にします。生徒たちがたくさんやってきます。相談室にはソファや直通電話もありました。そこで寝そべったり、友達同士ふざけあったり、また時には私に話しかけてくる子もいたり、という感じで、短い昼休みが過ぎていきます。

午後の授業時間になると、生徒たちは教室へ帰っていきます。私は緊急の場合を省いて、授業中は生徒の相談は受けないことにしていましたので。授業中は保護者の方の相談のために時間を使うことが多かったです。

放課後、また生徒たちがやってきます。昼休みのときのように大



ソファを置く等の教室らしくない雰囲気づくり

勢でにぎわうことはありませんが、何か本当に相談したいことがある人たちが、静かにすごしていることが多かったですね。生徒たちの相談内容は、対人関係のトラブルについてのものが一番多かったです。日常的なことですけれども、放置しておく和不登校やいじめという深刻な状態になる可能性も大きいですから、どんな小さなことでも真摯に話を聞き慎重に対応することを心がけています。

相談が終わってから職員室に戻ると、また先生たちが声をかけてくださったりします。授業が終わるまではひたすらあわただしい職員室ですが、放課後は先生たちも比較的時間が取れるようでした。そんな感じで、私の1日が終わるのでした。

さて、いかがでしょう？意外と先生たちとの関係が深いので驚かれたのではないのでしょうか？そう、おそらく一般にイメージされている以上に、生徒の相談と同じくらい、先生方とのコラボレーション

にエネルギーを費やしていると思います。先生方とのよい関係を築き相談活動の意味を理解していただくことが、生徒へのカウンセリングを安定して行うためには大切なのです。また、クラス内の対人関係の相談などは、生徒本人の許可を得た上で、担任の先生にご協力をお願いしなければ解決できないことも多々ありました。先生方の日々の教育活動と、形は違ってもスクールカウンセラーの活動は、生徒の健やかな生活を保証するという目的は同じです。いろんなケースで先生方と協力するためにも、学校の中のことを知っているというのはメリットが多かったです。先生方も、私が教員免許を持っているということで、安心して暖かく迎え入れてくださいました。

学校は一つ一つが違った特色を持ち、個人のように個性的で、時の流れとともに変化する奥深い存在です。学校をよく知るための努力は、常に必要だと思っています。

卒業生から「こんばんは」

神奈川県川崎市立西中原中学校夜間学級 鈴木 一広（昭和61年 文学部人文学科卒業）

○夜の中学校

「こんばんは」――これは私が勤めている中学校の生徒さんたちとの挨拶です。全国で35校しかない夜の中学校です。普通の中学校と違うのは、学齢の生徒さんは一人もいないことです。

夜間中学（正式には夜間学級または中学校二部）は、何らかの事情で義務教育が未修了の人たちに、中学校の卒業証書を授与するために開設されました。現在の生徒さんは、不登校だった若い人、戦争や家庭の事情で学校に行けなかった日本人・在日の韓国・朝鮮の人、ニューカマーと呼ばれる若い外国籍の人たちが、昼間の仕事や家事を終え、急いで夜の中学校に登校してきます。

授業は全教科やります。2～10人くらいのクラスで、学年に関係無く、個人の進度に合わせて行われます。私たち専任は国語・数学・英語を受け持ちます（これは行政によって異なります）。

では今年度、私が受け持っているクラスを紹介します。

国語は、50～60代の在日の韓国の女性2人と20代の外国籍の男性1人です。授業内容は、全員がとにかく「漢字が読めるように、書けるようになりたい！」という意志が強いので、教科書よりも、ニュースに出てくる言葉の解説文を使っています。まず、ふり仮名をふる。声を出して読む。出てきた漢字の練習をする。解説文に何も見ないでふり仮名ふる。何も見ないで漢字を書き入れる。最後に全文の清書をする。という作業を数種類のプリントを使って行います。在日の生徒さんはバインダーに一杯になったプリントを手にして、「これは私の宝物。棺桶に入れるんだ。」と言ってくれています。

数学は、60代

の日本の女性、外国籍の男性（20代）と女性（10代）の3人です。加減乗除や文字式など、一年生の内容を中心に勉強しています。私が数学で一番心がけているのは、内容は難しいけれど、なんとか理解できる、授業もおもしろい、と感じてくれることです。年齢も母語も違う生徒さんたちに「わけのわかる数学」を伝えるのは大変難しいです。

英語は、外国籍の女性（40代）と日本に帰化した女性（40代）の2人です。主に2年生の内容（時制の過去・未来、助動詞の用法など）をやっています。単語がわかれば長い文もだいたい内容が理解できます。英文の各単語の下に日本語を入れて目で見えるようにします。そして、相手にわかるような訳をするよう促します。すると、英文と日本文の構成の違いや、言い回しに注意しながら、素敵な訳を作ります。お互いの競争意識も高く、英語の予習をしてきてくれます（夜間では珍しいことです）。

○昼の吹奏楽部

私は昼の吹奏楽部の顧問もしています。一緒にやっていた昼の先生が昨年転勤され、お手伝いしていた私が、昨年、今年とコンクールで指揮をしました。指導者に能力が無いため、子どもたちには悲しい思いをさせてしまいました。ですが、子供たちは立ち直りが早く、体育祭・文化祭・連合音楽祭などに向けて、張りきって練習し



ています。音楽が心から好きな子供たちに救われています。日曜日や夏休みなどは吹奏楽部と行動を共にしています。

○大学生のみなさんへ

学生の時には学生の時しかできないことがあります。トルストイの文学全集をずーっと読んでいても、マーラーの交響曲全集をずーっと聴いていても、スキーやサーフィンを2ヶ月くらいやっても、何をやっても大丈夫です。許せる範囲で無茶をして下さい。

「教員になりたい」という意志を持ち続けてください。きっと道が開けてきます。私は卒業後、2年間は家庭教師、4年間は東京都の時間講師でした。縁あって、幸運にも川崎市の教員になれました。

本当に本当に、いろいろな物や事を見たり聞いたりたくさんして下さい。それが、生きていく上で、また教員になった時に、絶対に役に立ちます。

みなさんのご活躍を期待しています。

卒業生から（国語）

静岡県東伊豆町立熱川中学校教諭 白井 順司（平成元年 文学部国文学科卒業）

早いもので、専修大学を卒業し、中学校の教員になって14年目を迎えました。自分では若い、若いと思っていたのですが、周りからはもう「中堅教員」と呼ばれるような年齢になってしまいました。採用1年目は、気楽な学生生活とのあまりの違いに、「辛い」、「苦しい」、「厳しい」と思うことばかりでした。2年目に担任を持ってからは、仕事や生活に慣れたこともあり「楽しい」、「やりがいがある」と思うことが増え、充実した（と、自分で勝手に思い込んでいたのですが……）毎日を送ることができるようになってきました。そして、教員生活10年を越えた今、若さだけで生徒が身近に来ていた時と違い、教科指導・生徒指導などのあらゆる面で、生徒を引きつける確かな技術を身に付けていなければならないのですが、それができているのかどうか明確な答えを持ってないまま、日々の仕事と格闘しています。これから教員を目指す皆さんに、そんなわたしの教員生活の一端を紹介し、何かの参考になればと思います。

1. 学級経営・学年経営

子供たちが一日の大半を生活する、言ってみれば、子供たちにとって学校生活の基盤になるところが学級です。そこでの生活をいかに充実したものにさせるか、一人一人に所属感を持って過ごさせる

かということに担任としては心をくだきます。余計な心配事をせず、のびのびと生活できるようにできれば、学校生活が楽しくなってしまうと思います。生活環境や考え方、性格など十人十色で、複雑な問題を抱えている子供もいる場合もあり、難しいところも多いのですが、一人一人が自分の役割を果たし、行事に打ち込んだり、学級で協力したりすることができた時の子供たちの目の輝きは、そばにいる者にしか感じられないもので、教員になって良かったなあと感じる瞬間です。また、学級だけではなく、担当の学年がどのように成長して行っていきたいか、どのような力を身に付ける必要があるのかを考え、見届けていく責任もあります。

2. 教科指導

教科担任制の中学校教員である以上、担当教科の指導にももちろん力を入れなければなりません。指導内容や指導方法も常に変化していくものであり、また、学校5日制など時代の変化にも対応していかなければいけません。同じ所



後列中央が白井先生

が求められると思います。

3. その他

学級経営や教科指導の仕事以外にも教員のやらなければいけないことは、部活動の指導、生徒指導、学校行事の企画・運営、生徒の自治的活動のサポートなど限りなくあります。学生時代に考えていた仕事からは、想像できないくらい多岐にわたるものです。勉強を教えていれば良いというわけではありません。前述のように、生徒もいろいろ、また、一人一人の個性を大切にすることも叫ばれて久しいです。柔軟な発想、軽いフットワーク、柔軟な対応力が不可欠です。

4. 最後に

まとまりのない文章を長々と書いてしまいましたが、教員の仕事の一部だけでも知っていただけたら幸いです。多感な時期を過ごす子供たちと共に生活すること、それは正直苦勞も多いです。ですが、夢を持ち、それに向かっていこうとする子供たちに何らかの示唆を与えることができる職業だとしたら、こんなにやりがいのある職業は他にないはずです。同じ気持ちを共有できる仲間が一人でも多く、出身校の専修大から出てくれることを待っています。



卒業生から（英語）

東京都私立成城中学高等学校教諭 松垣 雅彦（平成元年 文学部英米文学科卒業）

早 いもので、今年で教員生活14年目を迎えます。最初の3年間は非常勤講師として、その後は現在の職場である私立の中高一貫校で専任教諭として勤務しています。現勤務校でも、気が付くと後輩がたくさんでき、気持ちはまだまだ若手のつもりですが、いつのまにか中堅どころとなっていました。今まで自分の教員生活を顧みることがほとんどありませんでしたが、今回の執筆を機に、少し振り返ってみようと思います。

1. 教員採用までの道のり

最初に述べましたように、私の教員としてのキャリアは非常勤講師から始まりました。

お恥ずかしい話ですが、私は大学生の頃、教職以外は全く考えていなかった割には、あまりそのための勉強はせず、東京都の高校教員採用試験に落ちてしまいました。非常勤講師になったのも教授の紹介で、大学の付属高校で働くことになりました。講師というのは基本的には授業時間しか拘束されず、自由な時間がたくさんあり、時間数をこなせばそこそこの収入は得られます。私は講師としての3年間、自分の専門である英語の勉強に没頭することができ、この3年間の学習は、今現在も教壇に立つ上で、大いに役立っています。また、この期間に、私は自分の教職への意欲を再確認し、教師としてやっていく自信を持つことができました。そういった意味では、私にとって非常勤講師としての3年間は決して遠回りや、無駄な時間ではなかったと言えます。ですから、仮に一度や二度採用試験に失敗したとしても、投げやりにならずに自分を磨

いてほしいと思います。努力を怠らなければ、必ずチャンスはやってくるものです。

2. 公立か私立か

みなさんの中には、公立校にするか私立校にするかで迷っている人がいるかもしれません。私の場合、教員になれるのであればどちらでも良いと思っていました。私が私立校を選んだ理由は、3年間の講師生活にあります。私が勤務していた学校では、生徒の学習意欲が非常に高く、また、設備面なども整っており、素晴らしい教育



環境でした。そこで働くうちに、私は私立の学校で教えてみたいと思うようになりました。もちろん、私立校のすべてがすべて教育環境に恵まれているというわけではありませんが、受験情報誌やホームページなど学校の教育方針・実績など調べるすべはいくらでもあります。また、私立校には異動がありませんので、腰を落ち着けて教育活動に専念することができます。ここまで私立校の良い点を述べてきましたが、もちろん大変な面もあります。まず第一に挙げられるのが、保証の点です。現在の少子化が進む社会の中で、私

立校は非常に厳しい状況に置かれています。東京都の私立校でも定員割れしている学校が数多くあります。生徒にとって魅力のない学校はどんどん潰れていくでしょう。次に挙げられるのが生徒や保護者からの強いプレッシャーです。高い授業料を払って私立に通っているわけですから、当然それに見合う高い水準の教育を求めています。特に「学校5日制」「ゆとり教育」など学力低下が心配される中で、私立校の果たす役割は大きなものとなっています。その要求を満たすためには絶え間ない研究と多大な努力が必要となります。

3. 最後に

みなさんはなぜ教員になりたいのですか。安定した仕事だからとか休みが多そうだからといった安直な理由の人は考え直した方がいいと思います。私自身教師の仕事はある意味体力勝負だと思っていますし、決して楽な仕事ではないと断言します。私は教師になる上で最も大事なものは「やる気」だと思っています。生徒を第一に考え、何事にも努力を惜しまない気持ちです。最初から完璧な人はいないわけですから、教員になってから成長していけば良いのです。みなさん頑張ってください。



オールを手にする松垣先生

卒業生から（商業）

東京都私立東京経営短大村田女子高等学校教諭 新井 菜穂子（平成14年 商学部商業学科卒業）

充

実した教師生活も、はや半年が過ぎようとしています。私は、教育実習先の東京経営短大村田女子高等学校に、現在教員として勤務しています。実際に本物の教師として生徒と接してみると、教育実習では見えなかったさまざまな苦労や困難、そして喜びが見えてきます。そこで、私が今まで感じた実習と実際の違いを述べていきたいと思います。

1. 教科について

実習のとき、1教科だけでしたので研究授業などは特に念入りに時間をかけて準備していましたが、いまは、簿記・文書処理・秘書総合の3教科を同時進行でやっていかなければならないのと、担任の仕事におわれてしまって、十分な時間が取れません。また、生徒に『理解させる』だけではなく、検定試験に『合格させる』という目的があるので、全員で合格しようという熱意を持って授業にのぞまなければなりません。たくさんの合格者を出しているベテランの先生方のようにはいきませんが、試行錯誤しながらも熱意だけは生徒につたわっていると信じて教壇に立っています。熱意さえ伝われば、生徒は応えてくれる、これは間違いなく実感できます。いまの自分に何ができるかを常に考えて、授業にのぞむように心掛けています。

2. クラス運営について

まず、一番の違いが『保護者への対応』です。教室の中にいる生徒だけに目をむけるのではなく、家庭環境や中学時代の様子についても把握しておかなければなりません。保護者の方たちと協力して、一緒に育てていくという気持ちでなければこの仕事は務まらないと感じています。自分より年上の保護者の方の信用を得るためには、



春の遠足（相模湖ピクニックランド）前列左が新井先生

生徒に対してと同様に、熱意と、細かい情報を交換できるよう密な連絡が必要だと思います。と同時に、保護者と話すときは生徒とは違うレベルで話をしなければなりません。もちろん時には、生徒には内緒の話を保護者とする場合もあります。そういった話の中で、保護者の信頼を得ることがクラス運営上、とても重要なこととおもわれます。

また、実習のときは2週間という短い期間だったので、話す時間が限られていて、ひとりひとりの細かい部分まで見ることができませんでした。4月から1年生の担任を任されることとなり、生徒とのコミュニケーションがいかに大切かということがわかりました。

生徒と親身になって話した分だけ、その生徒の本当に伝えたいことが理解できるのです。生徒がいる間は自分の時間を削ってでも、すこしでも多く生徒といわれる機会を作っています。

3. 最後に

私が教師となってからまだ半年しかたっていませんが、常に感じていることは、教師というのは勤務時間以外でも教師であり、担任であり続けなければならないこと。また、生徒の前では自分の感情は出せないが、自分の気持ちを本気で伝えないと生徒も心を開かないことです。生徒の機嫌を取るのではなく、生徒の気持ちを理解した上で、全力を尽くして指導できる教師を目指しています。教師にはたくさんの知識も必要ですが、生徒を理解するという柔軟なところも大切だとも思います。これから教師をめざすかたへ、あきらめず、あせらないで一歩ずつ頑張ってください。



夏の北軽井沢教室（前列左から2番目が新井先生）

教員採用試験体験記「採用試験合格のための3か条」

兵庫県尼崎市立城内小学校教諭 碓 裕樹（平成11年 法学部法律学科卒業）

新

任として採用され、最初の1学期が終わった。あつという間に過ぎ去ったと同時に



に、ほっとした安堵の気持ちを感じている。1学期を振り返ってみると、「採用試験」という呪縛から開放され、子どもたちとの日々の生活を通して、教師になった喜びと教師という職業の難しさを実感しつつある。3度の採用試験に挑戦し、ついに合格（補欠であるが・・・）をつかんだ私の体験が、これから採用試験に挑戦する後輩の少しでも役に立てればと思い、僭越ながら筆を執らせて頂くことにした。

1. 一つの問題集を最低3回は繰り返しすべし。

採用試験は筆記試験が欠かせない。これをクリアしなければどんなに教師としての資質があっても教師になることはできない。だからこそ、一つの問題集を選択したら、ほかの問題集に浮気をせず、その問題集を最低3回繰り返す。そうすれば、答えに関連した問題まで頭に入り、語句の説明でもキーワードが頭に浮かんでくるようになる。私自身もあちこち手をつけなくなった。しかし、二兎も三兎も追っては、一兎もつかまえることができないことを肝に銘じ、「こつこつがコツ」という恩師の言葉を思い出し、毎日少しずつ励んだことが合格につながったと思っている。

2. 論文はパーツで勝負！6種類ぐらいネタを用意すべし。

筆記試験の勉強ばかりに気がとられがちで、論文には手をつける

人があまりいないようである。しかし、私は、論文こそが重要であると考えている。また、時間の制限があるため、その場で考えて書くことは、大変危険である。だからこそ、自分のネタを用意することが大切である。私は小さなノートを用意し、自分のしてきた体験や学んだこと、教師になってどんなことがしたいかなど論文に使えるようなネタを書き出し、キーワードを入れ、200字程度でまとめておいた。そのネタを4～6つ用意しておき、それぞれのテーマに合わせて、あてはめていく。私には、ボランティア体験、一輪車に乗れた体験、海外旅行の体験、教育実習の体験、クラスの子と毎日ひとつ会話をする「一日一話」、3つの課題から選択できる「トライあんぐるの時間」などのネタがあった。そして「子どもと感動を共有できる教師」という教師像をキーワードにし、どのテーマでも結びつけるようにした。また、4つぐらい、過去の問題などからテーマを取り出して書いてみるのもよい。何も見ないですらすら書けるようになった時に論文の勉強が面接の時に役立つことは断言できる。そして、必ず文章の上手な人にみてもらう。人の意見を謙虚に受け止めることが合格への一歩となる。

3. たくさんの人に頭を下げて、お願いすべし。

私は、あまり迷惑をかけたくないという思いが強くて、人をお願いしたり、頼んだりするのは苦手であった。しかし、教師にどうしてもなりたいという思いのほうが更に強く、面接や論文指導、試験の情報収集を、専修大学の先生、小・中学校の恩師や実習の先生にお願いしたり、自分の苦手なピアノを妹にまで頭を下げて教えても

らったりなど、本当に多くの人にお世話になった。（私は先祖の墓参りまでして合格を祈願した。）そして、これらの多くの人の支えがあったからこそ合格できたという感謝の気持ちは、いつまでも忘れることができないだろう。そして採用試験の終了後、「これだけやったんだから落ちてもしかたない」と言えた時に、合格を手に入れることができた。

これを読まれた方は、そこまでしないと合格できないのかという思いを抱くかもしれない。いや、そうではない。自分がどうしても教師になりたかったからこそまでできたと考えている。かけがえない子どもたちとふれあい、感動を共有できる教室。この職業を選んだ人にしか味わえない魅力が教師にはあふれている。

教員採用試験体験記「学生のうちにできること」

埼玉県騎西町立騎西中学校教諭 村上 尊（平成13年 文学部英米文学科卒業）

この文を読む人のほとんどが大学生であると思いますので、私が大学生の時にしたことを具体的に書こうと思います。教員として生きていこうとする皆さんが、参考にしていただけなら幸いです。



今大学生活を思い返してみると、「あの時こうしておいてよかった。」と思うことがたったひとつだけあります。それは「教員採用試験の勉強を早めにはじめたこと」です。大学を卒業した後、臨時採用教員（講師）として教壇に立ったり、企業で働いたりすると、採用試験のための勉強時間が取れなくなってきました。私は今、採用試験の勉強の基礎を学生のうちに作っておいて本当によかったと思います。

私が教員採用試験を受けなくてはと思った時期は3年次の9月ごろでした。そして書店に行って採用試験の参考書を買ったのですが、最初は「こんなに勉強することがあるのか」と驚き、愕然としました。

そこで一念発起して10月から、時事通信社の通信教育を受けました。（受講料は65,000円。当時の私のアルバイト料一ヶ月分以上でした。）その通信教育を続けていったことが今の基礎を作ってくれたのではないかという気がします。今は通信教育のほかに、教員採用試験専門の予備校もあります。自分にあった勉強法、勉強習慣を早く確立してください。以下各分野の私なりの勉強法を書きます。

教職教養

教育原理、教育心理、教育史、教育法規などに分かれています。

最初はそのカテゴリーの多さに驚きましたが、計画的に勉強を進めていけば決して恐れるに足らずです。私は勉強する日時を決めて「9時から教育法規、10時から教育史」というふうに計画的に勉強しました。

一般教養

人文科学、社会科学、自然科学に分けられると思います。私は自然科学がとても苦手です。この自然科学に関しては4年次の5月ごろ短期集中で勉強しました。（苦痛でしたが、なんとか多少の学力はついたと思います。）他の二つは教職教養と同じように計画的に勉強しました。一般教養には各自治体の傾向が表れやすいといわれています。傾向の分析も綿密にやるべきでした。（私は美術史が全く答えられませんでした。）

専門教養（英語）

私は多少TOEICや英検の勉強をしていたから特に改めて勉強する必要はないと思っていましたが、これが大きな間違いであったということは教育実習の最中に気がつきました。実習中、英語力のなさを痛感する日が毎日のようにありました。（今でもあります。）教壇にたったら一番問われるのは専門の力です。いち早く（1年次からでも）継続的に勉強すべきだったと後悔しています。

面接

教員になろうとした動機のほかに、教育時事や学習指導要領などについてかなり突っ込んで聞いてきました。日ごろから教育関係の社会の出来事に関心を持ったり、あるいは教育に関する本を読んだりするといいいと思います。勉強のほかにこのようなことをするのは大変でした。

論作文

自分の教育に対する情熱を表現することはもちろんですが、情熱だけに傾いてしまうと説得力がなくなってしまうように思いましたので、自分の考えを具体的に分かりやすく表現することに気を配りました。試験官は情熱や実践力のほかに文章の構成力を見ているようです。実際に教職に就くと、文章をまとめることが山のようにありますので、そのテストと考えていいと思います。

教壇に立って1年ほどになりますが、今も日々勉強です。採用試験は実のところ、この教育現場での勉強すべきことの膨大な量にその人が耐えうるかどうかのテストなのではないかと思っています。この試験に合格し、教員になれることを願いながら、努力していきましょう。

教育実習を終えて（社会）

実習校：沖縄県伊江村立伊江中学校 法学部法律学科4年 小橋川 千佳

私 は母校である伊江中学校へ実習に行きました。実習前の夏と春休みに中学校を訪問し、授業も参観させてもらっていたのですが、やはり実習となると不安や緊張でいっぱいでした。

実習は6月3日からの2週間だったのですが、その前の金曜日に事前打ち合わせがあり、その時に指導教官の先生から「楽しむ事が一番だよ。授業ももちろん大切だけど生徒といっぱい触れ合い、話をして楽しい実習期間を過ごして下さい。」と言われました。また、歓迎会も開いていただき、その席で先生方から色々な話を聞く事も出来ました。実習前にこのような交流の場を持っていたので、実習への緊張や不安も次第に和らぎ、実習に臨むことが出来ました。

実習初日は、ほとんどの先生方の顔を知っていたので、生徒の反応だけが心配でした。しかし、朝のホームルームで、盛大に迎えてもらい不安は一気に吹っ飛びました。

私は、2年2組を担当させてもらったのですが、とても元気があるクラスで、みんなとてもやさしく協力的で頼りない私をいつも支えてくれました。生徒達と短期間でとても良い関係を作ることが出来たのは、クラス担任の先生がバレーボール大会を開催してくれたり、給食や学活の時間に色々とお気を配っていただいたからだと思います。

教科の指導教諭の先生も、とても協力的で私のやりたい様に授業をさせてくれました。実習生が私の他にもう1人いたので、2人でチームティーチングでの授業もさせてもらいました。TTでは、2人でやる難しさも知りとても勉強になりました。



前列中央が小橋川さん

単独での授業実践は、大学の授業で何回か模擬授業もやっていたので、ある程度自信はあったのですが、初回の授業は予定の範囲を終えることが出来ず、メリハリの無い授業になってしまい、自信喪失でした。先生からは、自分の授業のイメージを持って展開すること、生徒の反応があるので、それを生かした発問をもっと活用することや社会科はイメージを豊かにしたほうが良いので、ドラえもののポケットのような発想を持って身近な例を上げてイメージを膨らませると生徒達も興味を持ちやすいという事を言われました。

私は、何を教えなければならぬという事に意識がいてしまい、どのように教えるという事が欠けていたと思います。ですから、説明中心の授業になってしまっていたように思います。先生から指導を受けた後は、なるべく生徒が自分で答えを見つけられるような授業作りを心がけました。それからの授業は自分のイメージする授業に近づいた授業が出来たと思います。

授業以外では、体育大会や海神祭等がありスポーツや行事を通して生徒や父母とも交流を持つことが出来ました。教材研究や大変なことも沢山ありましたが、毎日がとても新鮮で楽しく、充実した実習でした。このような実習を行うことができたのも、先生方や生徒が暖かく迎えてくれて、学校の一員として接してくれたからだとも思います。

私は実習の環境にとっても恵まれていましたが、例えどんな環境でも新しい発見や、心に残る思い出等、充実した期間を過ごす事が出来ると思います。これから実習へ行かれるみなさんも、めいっぱい実習を楽しんで下さい。

教育実習を終えて～実習において学んだこと～(地理歴史)

実習校：岩手県私立専修大学北上高等学校 経済学部経済学科4年 熊谷 崇広

私は岩手県にある母校、専修大学北上高等学校において6月18日～7月1日の2週間、教育実習に行ってきました。今振り返りますと、教材研究などで睡眠不足が続き、また部活動指導に休日を返上して参加するなど精神的にも肉体的にもハードなものでありましたが、教科指導の先生方の親身で熱意あふれるご指導や、生徒たちとも積極的にコミュニケーションがとれたことなどがあり、充実した2週間を過ごすことができました。

私は実習中おもに、2年生を対象に日本史を教えてきました。人に物を教えることで、注意したこと、苦労したこと、また学んだことなど多々あり、非常に勉強になった実習でした。そこで、私の体験が少しでも、これから教育実習に臨む人への参考になればと思い、書き記したいと思います。

《教材研究さえ行っておけば・・・》

正直言って、自分自身が授業を行うまでは、授業というものはとりあえず教材研究さえ行っておけば心配なく、うまくいくものだと思っていました。しかし実際に授業を行ってみますと、そのことは間違いであることに気がつかされました。それは、自分が学んだこと(教材研究を通して)をすべて教えようとしても、一時間という限られた授業では時間がまったく足りません。しかも時間が足りない以前に、すべて教えようとするこ自体が、説明の一貫性を欠くことにつながっており、生徒は話に飽きてしまい、まったく授業になりませんでした。それゆえ、私は理想と現実とのギャップを感じ、それまでの「教材研究さえ・・・」神話がガタガタと音を立てて崩れ去っていきました。

その後、これから授業を行っていく上での留意点として指導教諭から主に以下の3つのことをご指導いただきました。

[1] 説明はシンプルかつ内容を絞

ること(すべて教えようとするのではなく、自分が何を教えたいかにより、学習内容を選択しなければならないこと)

[2] 板書と説明の間は十分にあげるこ

[3] あせらず堂々と話すこと

これら、3つの指導を通して、授業はあくまでも生徒が主体であり、教師は生徒の能力を引き出していくために、努めなければならないということを学びました。また、教育実習日誌の指導教諭欄においての「自分自身だけが満足した授業では、やはりいけない。生徒が内容を理解して、初めて授業として成り立つのである。」というコメントからも、授業とは生徒に理解されてはじめて成り立つものであることに気づかされました。

《講義形式と生徒主導形式》

話は3つの指導をいただいたその後に戻りますが、私は生徒に理解してもらえる授業を展開するために、いろいろ考えました。そして、授業を参観することでその答えを導き出そうとし、授業の合間を見ては諸先生方の授業を参観しました。しかし、人それぞれ個性や違いがあるように、教師によってその教授法は多様であるためにかえって悩んでしまいました。

いま、参観をした授業の形式を二つの分けるとしたら講義形式型と生徒主導形式型に分けることができます。一方の形式が良く片一方の形式が悪いというように、定義づけられるのであれば悩みはしないのですが、前者は多くの内容を生徒に教授できるが、一方的な授業になる傾向があり、後者は生徒が自ら学び理解する心を養うことができるが、テンポが遅くなりやすく教授内容(範囲)が終わらない傾向があり、双方に利点と欠点が存在するために煩悶しました。

このことを指導教諭に相談しました。「どんな教授方法でも生徒に

理解してもらうには、自分がその内容を理解し、何を教えたいのか明確であることはもちろんのこと、大切なことは『わかりやすい説明』をすることである。」とご教示くださいました。私は『わかりやすい説明』をするために、実際に私が経験したことや新聞やTVなどの報道関係のことなどの例を用いて歴史事実の説明を行うこと。文化の単元では図説を活用した説明を行い、実際に目で見て理解してもらうこと。この2点に心がけ、発問を交えた講義形式の授業を展開しました。しかし、なかなか思うようにはいかず四苦八苦しました。毎回授業の後には指導教諭と反省会を行い、良かった点や改善点等を話し合いました。その甲斐あってか、担当クラスでの最後の授業が終了した後、学級日誌に「今日の授業は面白く、わかりやすかった。」と生徒から評価をいただくことが出来ました。このことから説明の重要性を改めて感じました。

私はこの実習を通して、人にものを教えることの難しさを感じた反面、授業を理解してもらったときのうれしさを体験することが出来ました。

最後に一言、教育実習に臨む皆さんへ話しておきたいのですが、人にものを教えるということは、「われ以外みな師である」という気持ちでなければならぬと思います。つまり、教えている生徒から逆に学ぶ気持ちがなければならぬことであります。また、生徒は自分の力量を知らせてくれる鏡であります。どうかこのことを忘れずに教育実習に臨んでいただきたいと思います。



後列中央が熊谷さん

教育実習を終えて（商業）

実習校：東京都立葛飾商業高等学校 経営学部経営学科4年 本多 裕之

私は、今年度商業科の教育実習生として、葛飾区の商業高校で勉強してきました。実習期間2週間という短い間でしたが様々な経験が出来ました。今回、教育実習で学んだこと、苦労したこと、経験をお話したいと思います。少しでも教育実習の雰囲気が伝われば嬉しいです。

まず、教育実習も実習校によって、実習のやり方や学校の雰囲気が違うので、まず私が勉強してきた実習校についてお話ししたいと思います。

基本的な実習内容は授業見学、指導案の作成、教科指導の3本柱で概ね進んでいきます。これは、何処の学校でも同じだと思います。実習が始まってから2、3日は授業見学や指導案の作成をおもに行っていました。実際に教壇に立ったのは、実習が始まってから暫く経ってからでした。初日に教科指導があるという話も聞くので、担当教科の単位数や実習担当の先生によってスケジュールが大きく変わってくると思いますので、担当の先生との連絡は出来るだけ多く取った方が良いでしょう。

学校の雰囲気は、少し騒がしいところもありましたが、生き生きとした学生が多かったのが印象的です。

では、次に教育実習で苦労した事について教科指導についてと実習期間全般についての2つの視点からお話します。

教科指導について特に苦労した点は、生徒の意識を集中させること。生徒間での理解の差。授業時間内に指導案通りに授業を終えることの3つです。1つ目は生徒の意識を集中させること。授業の導入に生徒の意識を集中させるという事は、教科教育法等でよく言われ

ていることですが、実践することはとても大変なことです。出席をとる、授業の流れを説明する、時事の話をするなど導入法は幾つかありますが生徒の興味や先生との信頼関係などもあるので簡単に思い通りの導入にはなりません。慣れない間は、長引かせると授業時間がなくなるので、早めに展開に入ってしまった方が良いでしょう。2つ目は生徒の理解についてです。当たり前ですが理解の早い生徒、遅い生徒がいます。簡単な復習でも、中々出来ない生徒もいます。そういった生徒に理解させようとする努力も大切ですが、理解の早い生徒は退屈になってしまいます。この折り合いが非常に難しいです。この様に導入や理解の差を埋めようと苦労を重ねていると何時の間にか授業は終わってしまいます。結果3つ目の指導案通りに授業が終わらない結果になってしまいます。こういう場合には机間巡視をこまめにすることをオススメします。生徒の近くに行くことで生徒も集中し、生徒の状況も把握することが出来ますのでこれで少しは上手く行くかもしれません。

実習期間全般については、時間

の使い方、生徒とのコミュニケーションの2点についてお話します。

1つ目の時間の使い方ですが、基本的には指導教科の研究や授業見学になりますが、現職教員の生の声が聞け、教師という職業を知る絶好の機会なので是非活かして欲しいと思います。また他にも、出来ることはあるので自分で見つけてみてください。2つ目の生徒とのコミュニケーションですが、これは時間が許す限りといった方が良いでしょう。生徒と良い関係を築いていけば、授業も円滑に進めることができますし、生徒から学ぶことも大きいです。また、コミュニケーションをとる上で生徒が悪ふざけをするようなことがあれば、厳しく叱ることが必要です。一度許してしまうと生徒に甘くみられてしまいます。

私の実習中の経験を一部ですがお話しさせて頂きました。注意点ばかりで教育実習が堅苦しいイメージになってしまったかもしれませんが、実際の実習はもちろん大変なこともあります。楽しいこと、嬉しいことの方が多いです。次年度実習を行なう皆さんも有意義な実習期間を過ごして欲しいと思います。



教育実習を終えて（国語）

実習校：東京都私立専修大学附属高等学校 文学部国文学科4年 倉林 彩

4 年前までは自分が生徒として通っていた学校で、今度は「教える」という立場になる教育実習。期待と不安が入り交じった複雑な気持ちでいっぱいでした。何でも吸収して自分の糧にしようと決意して教育実習に臨みました。

私は「共生とは何か」という環境問題の評論の授業を21時間行いました。実習開始までの1週間に、自分でやり過ぎだと思っただけ教材研究をしたつもりでした。しかし、実習が始まると自分の教材研究の足りなさを痛感させられました。私は教科書に出てくる事柄を深く掘り下げて調べることばかりに気をとられて、文章構造の研究が不十分だったのです。現代文の授業なのだから、文章構造を見失っては何なりません。まさに本末転倒でした。

授業は自分のすべてが出てしまう場であると強く感じました。生徒は教師をととてもよく見ていて、そして正直に反応を示します。自分が納得いくまで研究し、自信を持って行った授業と、納得のいかないまま行った授業では、生徒の反応の差は歴然としていました。納得のいくまで研究した授業では、生徒は活発に発言してくれ、こちらの説明をきちんと聴いてくれました。しかし、納得がいかないまま行った授業では、寝てしまう生徒が多かったり、教室の空気が停滞してしまうことがありました。教師という職業は、自分の行ったことがダイレクトに返ってくる厳しいものであるのと同時に、やりがいのあるものなのだと強く感じました。

実習中、私が最も苦労したことは、生徒と多く会話しながら授業を進めるということでした。当初、私は自分の解釈を生徒に答えさせ

ようと、直接的な質問ばかりを設定していました。一問一答式のようないやとりばかりの授業では、理解しにくいばかりでなく、教室の空気も停滞したものになってしまいます。これでは生徒が眠くなるのも無理ありません。生徒の反応に合わせて、時には回り道しながら授業を進めることが必要でした。しかし、なかなかこれがうまくできずに苦労しました。生徒の個性を掴んだうえで、もっと肩の力を抜いて授業ができたら、より活発なやりとりができたのだと思います。

私は当初、生徒を注意することを怖がってしまい、注意できずにいました。担当して下さっている先生から、「生徒を注意しないということは、優しいことではない。嫌な面とも向き合っていかなければだめだよ。」と言われて、自分なりのやり方で注意するようにしました。みなさんも「実習生だから」と妥協しないで様々なことに挑戦してほしいと思います。

教育実習は教科実習だけではなく、生徒との関わりもとても大事なものです。私は生徒と放課後に

様々なことを話しました。スケッチ大会の絵を貼るのを手伝ったり、部活動にも参加しました。これら生徒とのふれあいは、自分を後押ししてくれるパワーとなりました。生徒から「先生の授業わかりやすいよ。」とか「がんばって!」と言われるとどんどんパワーがわいてくる気がしました。ただ、もっと多くの生徒と話したかったという悔いが残りました。

教育実習は本当に楽しく、内容の濃いものでした。少ない睡眠時間でつらくても、温かい生徒や熱心に指導してくださる先生、支えあえる実習生仲間のおかげで楽しい実習になったのだと思います。もっと長い期間実習したかったと思いました。

一生懸命取り組みればその一生懸命さは必ず生徒に伝わります。教育実習はとても短い期間ではありますが、積み重ねられることがあると思います。実習での経験が自分の大きな支えになることは間違いありません。

みなさんの実習が充実した、楽しいものになるよう祈っています。がんばってください。



中央が倉林さん

教育実習を終えて（英語）

実習校：神奈川県立新城高等学校 文学部英米文学科4年 武田 美樹

「先生、頑張れ！」次の授業のために廊下を走る私に、生徒が声をかけてくれる。私が実習を行った神奈川県立新城高等学校はそんな学校です。不安と期待でいっぱいだった私を温かく迎えてくれました。実習で一番大切なことは、積極的に行動することです。ただでさえ短い期間の実習、たぶん頭の中は授業のことで精一杯になります。ですが毎日、クラス全員の生徒と話すくらいの気持ちで動くことが大事です。

まず準備として、私は実習前に数回、学校を訪れて担当の先生に会い、生徒の名前とどの範囲を実習で行うのかを教えてもらいました。できるだけ早く生徒の顔と名前を覚えて呼ぼうと努力しました。授業の準備では、単語を書いたフラッシュカードを作り、教科書の単語をしらみつぶしに調べ、授業をどう展開するかを考えました。私の担当の先生は、授業の前に文法のドリルをやることにしていたので時間配分が難しかったです。

私が受け持ったのは高校1年生、4クラスであわせて20時間授業がありました。実習1日目は見学をし、2日目から授業を行いました。実習の前に体験談などで「実習中は眠れない」ということを聞いていたので、まずは「1日6時間は寝る」ことを心がけていました。しかし実際始まってみると様々な問題点がでてきて、それに対処するので精一杯でした。ちなみに睡眠時間は3時間ほどで過ごしました。

授業において大きな問題点は3つありました。まず1番に気をつけなければならなかったのは声の大きさです。いざ教壇に立つと、40人もいる教室はとても広く、後ろに聞こえるように大きくハキハキと話すように心がけました。次

に、授業が時間内に終わらないこと。私は生徒に考えてほしいと思い、なるべく生徒の反応を求めながら授業を進めたので、クラスによっては予定通りに終わらないことがありました。先生には「生徒の反応を待ち過ぎないように」とアドバイスをいただきました。他の実習生仲間も言われていたようですが、自分で思っているよりも早めに授業を進めるのが生徒たちから見たらちょうど良いそうです。3つ目は授業に盛り上がり方をうまくつけられないこと。単語や練習はみんなが声を出してできるのですが、精読するときには「メモをとりなさい」と言わないと何もしない生徒がいました。授業内容に関する豆知識や、笑い話を取り入れると、生徒は興味津々に聞いていたのでもうまく利用してみるとよいと思います。

実習が終わって数日後が合唱コンクールだったので、朝と放課後は歌の練習をしていました。おかげで生徒たちと話す機会が多かったです。本番の合唱コンクールでは生徒と一緒に緊張をしながら

ら舞台に立ち、歌うことができ、本当に楽しい思い出になりました。

生徒はとても素直です。面白ければどんどん反応するし、つまらなくなれば寝てしまいます。いろいろと工夫をしてみてください。私も今考えてみると、もっと色々なことが出来たんじゃないかなと思います。それが出来なかったのはその時の私に余裕がなかったからなのですが。いくら準備をしてもしすぎることはないので、みなさんには十分に準備をして実習に臨んでほしいと思います。実習が終わった後にはきっと素晴らしいものが得られると思います。私は生徒たちから「教師になる」という思いに後押しをしてもらいました。「いつか“本当の”先生になってね」という生徒の言葉に応えたいと思います。みなさんも大きな声でハキハキと、テンションをあげて頑張ってください。



前列左が武田さん

介護等の体験を終えて

法学部法律学科4年 中田 秀幸

介 護等の体験といっても、私の家には高齢者もいませんし、ボランティアなどの経験もない私にとっては不安でしかたがありませんでした。実際に介護等の体験を終えてみると、老人福祉施設での5日間が短く感じ、ちょうど慣れてきた時期に体験が終わってしまったように思います。私が体験を行った港区立台場高齢者在宅サービスセンターでは、5日間の中でできるだけ私たちに「介護等の体験」をしてほしいとの配慮で、センターの近所に在住している高齢者の送迎、夕方の送りバスへの添乗、入浴見学などを体験しました。初日にセンター長さんに車椅子の扱いかたの練習、高齢者への接しかたを教わり、福祉にはほとんど縁のない私にとっては新鮮に感じ、私たちが普段生活しているときにはさほど気にならないことであろう、ちょっとした段差や坂道が車椅子や高齢者にとっては障害になることを知りました。最初は高齢者の方と何を話していいのかわからず緊張してただ座っているだけでしたが、徐々に慣れてきて多少は会話ができるようになったと思います。4日目にはカラオケで下手な歌を歌ってしまいましたが、今となってはいい思い出になっています。実習の中で台場在住の高齢者の方をアパートまで送迎しているときに「私が救急車を呼んだときに、エレベータの幅にストレッチャーが開ききらない幅で救急隊員が担いでいたのよ」という話を聞き、建築するときに気がつかなかったのだろうかとの疑問に感じました。最近ではバリアフリーという言葉は耳にしますが、実際はあまり行われていないような気がします。これから日本では、2020年には4人に1人が65歳以上

の高齢者になると推定されています。在宅介護支援センターの役割としては、職員の方に「ひきこもりになりがちな高齢者の方たちをなるべく外に出させるようにして、寝たきりにならないようにするのが役割なんです。」と言われたことが印象に残っています。私の意見ですが、人には、自分の居場所というものが必要だと考えています。高齢者の方にとっても支援センターが居場所になっている方もいるのではないかと思います。日本の高齢者福祉の状況は必ずしも良いとはいえませんが、介護保険の導入などにより徐々に変わり始めています。このセンターの体験を通して、自分が普段生活しているときは気がつかないような新たな視点があることを認識しました。

葛飾養護学校での実習では、真冬のマラソン大会に生徒の伴走として参加させてもらいました。さすがに真冬の江戸川河川敷の風は冷たすぎて、顔が痛かったことを思い出します。しかし、その寒風の中を半そでの体操着でゴールを目指して走っている一生懸命な生徒たちの姿に感動しました。養護学校の生徒は全体的に元気な生徒が多く、先生方の雰囲気も明るく、生徒のために厳しくも温かい指導が行われているように見えました。放課後は陸上部の活動に参加しました。ほぼ毎日、練習しているそうなので、駅伝大会にも参加するということでした。授業にも参加させてもらいましたが、どの生徒もまじめに作業に取り組んでいました。彼らの姿勢を私も見習わなければならないと思いました。

この7日間の介護等の体験を通じて、今までに経験していないことを体験したと思います。

養護学校や高齢者福祉施設など

は、ボランティアでもしない限り訪ねる機会はないと思います。それを介護等の体験により経験できたことは、教師になることで必要でもありますが、社会人として働き始めたとしても必要なことであると感じました。今後は障害者や高齢者に対する物的なバリアフリーだけでなく心のバリアフリーの実現も必要ではないかと思います。介護等の体験は短期間ですが多くのことを学べる貴重な経験になると思います。

介護等の体験を終えて

法学部法律学科4年 橋場 千鈴

私は、平成13年5月31日～6月1日の2日間東京都立葛飾養護学校と平成13年8月20日～8月24日の5日間大田区立新井宿福祉園で介護等の体験を行いました。

東京都立葛飾養護学校では、2日間という短い間でしたが、生徒の皆さんと積極的に触れ合えるように努力する事、生徒の皆さんと少しでも多くの時間を分かち合えるよう努力する事、この2つを目標におき、自分なりに試行錯誤しながら、2日間を過ごしました。私が2日間で最も嬉しかった事は、言葉では自分の意思を表現する事が出来ない女の子との出会いでした。彼女は、1日目にキックベースを行う時間があったのですが、その際に、面識もない私に真っすぐな目で手を握り、私と共にキックベースを行いたいという意思を伝えてくれました。また、2日目のトレーニングの際にも、「よっ」と声をかけて私の所に来て、共にトレーニングをしてくれました。彼女との出会いによって、言葉で会話が交わさなくても、体や表情を使えばコミュニケーションは出来るのだという事を改めて感じる事が出来ました。反省点としては、自分自身まったく初めての経験であった為、何をどのようにしたら良いのかわからずに、自分が今出来る事は何かという思いでいっぱい、スムーズに動けなかったという点です。しかし、その思いを次の体験に活かせるように努力しました。

大田区立新井宿福祉園では、葛飾養護学校での課題を克服しなければという思いで、1日目から緊張の連続でした。新井宿福祉園での5日間を過ごすにあたっての目標として、積極的に利用者さんと接し合えるように努力する事、ま

た利用者さんと共に体と言葉でコミュニケーションをとるように努力する事という点に主に力を入れました。1日目は、利用者さん達のお出迎えからスタートしました。初めて見る私に、皆笑顔で挨拶を交わしてくれ、私自身ホッとしたという気持ちが正直なところでした。5日間頑張れるという気持ちになりました。その日の午前は陶芸の手伝いをし、共に昼食をとりました。しかしあまりの緊張にご飯が喉を通らず、先生方にも心配をかけてしまい、反省する点が多かったです。その後、歯磨きの手伝いを行いました。午後からは散歩をし、近くのデニーズへ行き、利用者さん達と共にジュースを飲んで帰って来ました。2日目は、午前は手工芸に取り組み、紙すきをして封筒を作りました。その後昼食をとり、歯磨きの手伝いを行いました。2日目という事もあり、利用者さん達も少しずつ私に対する緊張がとれ、スムーズに歯磨きを終える事が出来ました。午後からは軽運動をし、ボーリングを行いました。3日目は台風が近づいた為大雨になり、午後の活動はお休みになりました。利用者さん達の数も少なく、来ていた利用者さん達も雨という事もあり、少し元気がなかったという点が気になりました。しかし、そういう時こそ笑顔と元気を忘れずに優しい気持ちで接しなければという思いを強く感じました。4日目は、昨日の雨がうそのようにすごく良い天気でした。午前は煎餅作りを行い、その後昼食をとり、歯磨きの手伝いを行いました。午後はストレッチをしジェンカを踊りました。5日目は、とうとう最終日なので悔いの残らない1日にしようと心に決め過ごしました。午前は健康診

断を行い、その後昼食をとり、歯磨きの手伝いをし、午後はカラオケを行いました。楽しそうに一生懸命歌っていた姿が印象的でした。帰りの会も終えバスに乗り利用者さん達が帰る際、一生懸命手を振って「ありがとう」と涙をうかべながら手を握ってくれた事を今でもはっきりと覚えています。まだまだ未熟な私にいろいろなものを与えてくださった方々に本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

これらの体験を通して、1日1日を過ごす事の大切さ、人との触れ合いなど私達が生きていく中でとても大切なものを感じさせてもらった体験でした。私の事を信頼してくれて見せてくれた笑顔と真っすぐな目を絶対に忘れてはいけないうと強く感じました。今後行かれる皆さんも自分自身が成長できるような体験をして来てください。

司書・司書教諭課程

Index

1	学習指導と学校図書館	26
	—— 専修大学経営学部兼任講師 山田 節子	
2	卒業生から	28
3	図書館実習を終えて	29

学習指導と学校図書館

経営学部 兼任講師 山田 節子

・はじめに

1998年に「学校図書館司書教諭講習規程」の改正があり、司書教諭養成制度が大幅に改善されました。それにより講習科目も従来の7科目8単位から5科目10単位と全面的に再編され、本学でも、その形で講座が開かれています。

この5科目は「学校経営と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「学習指導と学校図書館」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」で、それぞれ2単位となっています。

私の担当の「学習指導と学校図書館」について、その内容や授業の展開について述べ、司書教諭をめざす学生をはじめ学校図書館に関心を寄せる方々にも今回の改正がめざすものについて理解していただければと思います。

・ねらいと内容

「学習指導と学校図書館」のねらいは、学習指導における学校図書館メディア活用についての理解を図ることにあります。その内容は

- (1) 教育課程と学校図書館
- (2) 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択
- (3) 児童・生徒の学校図書館メディアの活用能力の育成
- (4) 学習過程における学校図書館メディア活用の実践
- (5) 学習指導における学校図書館の利用
- (6) 情報サービス（レファレンスサービス等）
- (7) 教師への支援と働きかけとなっております。

この内容を見ますと、学校図書館は学校の教育課程と密着してい

て、児童・生徒の学習活動に学校図書館を利用することの必要性を示しています。これは、新しい教育課程がめざしている「教え」から「学び」への学校教育改革の流れに則して当然のことと考えられます。児童・生徒が「自ら学ぶ」ための資料や学習の場を提供する学習・情報センターとしての学校図書館の役割の大きさと重要性を感じさせるものです。

また、新しい学力観として示された「生きる力」とは自分で課題を見つけ、自ら考え、自ら問題を解決していく資質や能力であるとするならば、(3)の「児童・生徒の学校図書館メディア活用能力の育成」などは、最も重要で必要な内容であることが理解できます。

・授業のすすめ方



授業でよみきかせをしている山田先生

授業では、学生たちの学校図書館についての認識がどの程度なのかを知ることから始めています。

まず、学生たちが今までに経てきた小学校・中学校・高等学校での学校図書館についての記憶・活用の仕方等の経験や体験などを思い出してもらいます。そこでわかることは、学校図書館がいかに彼らの学習活動と関わってこなかっ

たかということがあります。特に中学校の場合は、学校図書館に行ったことが殆どないという学生もかなりいて、学校図書館の持っている意味が全く理解されていないことがわかります。

また、「読みきかせ」等の読書指導は、小学校低学年の頃、担任の教師にしてもらったというのがありますが、調べ学習的な形で学校図書館を活用したというのは（修学旅行の準備で使ったという以外）大変少なく、受験勉強のために部屋を利用していたと言うのが多少ある位で、学校図書館が学習活動の場として存在していなかったことを示しています。

そこで、学校図書館が「学校図書館法」で謳っている「教育課程の展開に寄与する」ことを第一義に考え

ると、これまでの学校図書館では不十分であり、児童・生徒の学習活動を支援していくために学校図書館メディアの充実や司書教諭のあり方等について考えていく必要性が浮かび上がってきます。

学校図書館メディアの充実では、学校図書館メディアの選択が大変重要になります。学校図書館メディアは、今までは活字メディアのみでしたが現在はそれに視聴覚メデ

ィア・電子メディア等の多様なメディアが収集・利用されるようになっていきます。これらのメディアを総合的に管理し、効率よく利用できるようにすることが、これからの学校の課題であり、学校図書館がメディアセンターと呼ばれるための必須条件です。

次に、その学校図書館のメディアを活用するための能力の育成が

必要になります。メディア活用能力の育成とは、児童・生徒が身の回りのさまざまなメディアの特性を知り、図書館の機能を知って、必要に応じて適切なメディアを選択でき、適切に効果的に利用できるような能力を育成することにあります。これは、各教科に共通の土台ともいべき能力で、「生きる力」つまり情報活用能力の一部でもあります。そうすると、そのメディア活用能力育成に関わる司書教諭の役割の重要性は言うまでもないこととなります。

教師として、情報・メディアの専門家として、教育課程の立案・展開の支援者としての役割は大変重たいということもよくわかります。

司書教諭は、児童・生徒のメディア活用能力の育成や情報サービスが大事な仕事になりますが、教職員の情報要求に対しても同様に情報や資料を提供し、さらに積極的に必要と思われる情報や資料を選択し、提供することが求められているのです。

これらのことについて、順次、具体的な事柄を交えて授業を進めているのですが、(4)の「学習過程における学校図書館メディア活用の実例」の部分では、現在、実際に学校図書館を活用して学習の展開をしているところがまだ少なく(とくに中学校・高等学校)、事例探しには苦労しています。

新聞の学校教育、特に学校図書館や読書指導に関する記事、全国学校図書館協議会発行の雑誌「学校図書館」からの資料、「新学校図書館入門」(草土文化)掲載の資料

など、種々な資料を使っはいますが、もっと事例が欲しいところです。

また、学校図書館を利用して学習を展開している学校の例や、司

知して『教科に密着した図書館』になるように運営したり、チームティーチングなどで学習の展開をするなど、司書教諭に関してのさまざまな知識を得ることができた」

「この講座を受講したのは、教職の授業に少し授業数を加えれば、もう一つ免許資格がとれるからという軽い気持ちからでしたが、受講してみても逆によかったなと思いました。なぜなら自分が小学校・中学校・高等学校の時に利用していた学校図書館について、あまりに知らないことが多過ぎたけれど、この講座で学校図書館のあり方、大切さというのをすごく学ぶことができ、自分の中で新しい世界が広がったなあと感じました。ビデオ

で、調べ学習の増加ということや、司書教諭の大切さに触れ、学校図書館には、司書教諭がいなければならないと思いました」

・最後に

この度(2002年8月)文部科学省から「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が報告されました。その中に「学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童・生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」とあります。今やっと国も学校図書館の充実に腰をあげたと言っているでしょう。学校図書館の充実により、この「学習指導と学校図書館」の講座内容にあるような学習活動が、各小学校、中学校・高等学校で展開されることを心から願うものです。



先生が授業で活用している資料

「新学校図書館入門」(草土文化)

「学校図書館」(全国学校図書館協議会)

書教諭が活動している学校のビデオを見ることで、学生の学校図書館についてのイメージをふくらませてもらうようにもしています。

授業の終りの方では、毎時間「読みきかせ」や「ブックトーク」で児童・生徒に手渡したい絵本や児童文学の紹介をしています。それを楽しみにしている学生もいるので、私も張り切ってしまいます。

・受講生の声から

「この授業を通じて、学校図書館における司書教諭の重要性を強く感じた。司書教諭は、まず教師であるので、学級担任をしたら大変だと思った。だが司書教諭にはやりがいのある仕事がたくさんあるということもわかった。21世紀の学校教育の課題として、情報へ対応し、情報活用能力を育成する情報教育の推進を図らねばならない。また、司書教諭は、教育課程を熟

卒業生から

千葉明德短期大学図書館（時間給事務職員） 望月 春奈（平成14年 経済学部経済学科卒業）

大学に入り、幼いころ大好きだった絵本と再び出合った事がきっかけで、4年から司書課程を履修しました。就職活動のある大事な時期でしたが、司書の仕事にも興味があったし、絵本の勉強がしたいと思ったからです。そして何より、入学当時に意気込んでいたほど、大学3年間で何かに挑戦したと思えるものが無く、最後に何かやっておきたいという気持ちがあったからだと思います。

けれどそのうちに、本当に司書として、できれば学校図書館などの、絵本に多く触れられる図書館で働きたいと思うようになりました。しかし、競争率が高い図書館員にそう簡単になれるはずありません。そうこうしているうちに3月になってしまい、正直あきらめかけていたところ、幼児教育科をもつ短期大学図書館員の募集を見つけました。おそらく絵本も多く所蔵しているだろうし、当時、子どもたちの絵本を読む時の表情や、（卒業論文を書くために通っていた）動物園での、動物を見つめるまなざしを通して、子どもの感性の豊かさに驚かされ、その一方で、虐待などの子どもの悲しい事件に疑問を感じていた私にとって、びっくりするほどぴったりの職場だと勝手に思い込み、絶対に働きたいと思いました。「ここが駄目だったら、あきらめよう。」と思い挑戦し、嬉しいことに採用していただけというわけです。

こうして、私が勤めることになった千葉明德短期大学図書館は、今もなおカード貸出しで、職員は、司書教諭資格を持つ専任職員と私だけという小さな図書館です。それでも、幼児教育科の専門書の他に、期待通り、絵本もたくさんあります。私は現在、購入希望図書

の発注に、登録、装備、貸出し、レファレンスなどの基本的な図書館業務をさせてもらっています。ただ、短大が、学生286人のアットホームな雰囲気であることや、子育てに関する情報や人的資源を活かした子育て支援を行っていることで、明德短大図書館ならではの仕事も多くあります。例えば、子育て支援の1つである“親子教室”に参加している親子に、絵本や子育ての専門書を貸出していること、月に1度の土曜日に図書館を開放し、学生がよみきかせや手あそび、パネルシアターなどをして地域の子どもたちと遊ぶ、サタデーライブラリー（サタライ）を行っていることなどです。

実際の私はといえば、親子教室を終えて一直線に図書館へやってくる、元気いっぱいのおさなお友達と格闘し、サタライでは、若い学生たちに混じって、負けじと大騒ぎしているといった感じです。

このような短大の持つ“文化”を外に発信していくのも図書館の仕事であり、それが自分の仕事であると考えると身が引き締まって

しまいますが、普段の日々は、そんなことを考える暇もなくドタバタと過ぎていき、もっと単純に、ここでの仕事を楽しんでいます。それは、希望通り絵本に囲まれ、子どもたちの豊かな感性に触れられるからとか、上にあげたような他ではできない仕事に面白さを感じているからだと思うのですが、そのほかにも、自分がレファレンスをしたことで学生や教授に喜んでもらえたり、「これ、よんで」と子どもに手をひばられたり、実習での失敗で失った自信をサタライで取り戻し、いきいきしている学生の姿を見たりというように、「自分の仕事が誰かに喜んでもらえる」＝「周りの人が私の仕事を認めてくれ、あたたく見守ってくれている」ことで、大学生活では得ることのできなかった大きな自信を与えてもらっているからだと思います。この半年の間にももらった自信を活かして、これからも、この職場での人とのつながりと環境を大切にし、いろいろな事に挑戦していきたいと思っています。



仕事で保育園に行くこともあります。（おゆみ野保育園にて 左端が私）

図書館実習を終えて「充実したカリキュラムの図書館実習」

実習館：山梨県立図書館 経営学部情報管理学科4年 今井 敬子

山 梨県立図書館にて、約2週間の図書館実習を行いました。実習をする前は貸出返却処理や配架作業、レファレンスといったカウンター業務が中心の実習をするのだと思っていました。しかし、3課（総務課、資料情報課、企画協力課）5担当（資料担当、郷土資料、情報システム、相談サービス、振興）あり、すべての担当に携わり表向きでは利用者には分からない仕事が多いのだと実感しました。

県立図書館には大学図書館や市町村立図書館とは違う、県立図書館の役割があります。選書基準も利用者サービスも地域資料の収集方針も独自のものを持っており、「市町村立図書館への支援と図書館間の連絡調整」、「県民の直接利用への対応」を運営の柱としています。

新刊も含めて毎週約300冊ほどの本が届きますが、これらは自動的に送られてくるわけではありません。資料担当の司書が新刊案内やパンフレットから選定して選定リストを作成し起案、決裁してから発注しているのです。資料選定委員会が毎週開かれ、実習生の私も選定の参考となる資料の作成をし、実際に選定委員会も傍聴しました。もちろん利用者からのリクエストもありそれも対象となりますが、資料選定基準に則って選定されます。そのときの社会状況、利用者の要望、現在の蔵書図書の内容、選定にかけられる図書の内容や著者の詳細を把握していなくてはなりません。また、県立図書館ならではの地域資料（郷土資料及び関連県人著作資料）の収集方針もあります。「これは似た本があるから要らない」、「以前からリクエストが多いので1冊購入しよう」、「今、話題になっているし調



笑顔で応対する今井さん（右）

査研究に使えるから購入しよう」という具合に1冊1冊吟味するので、私はただ聞いていることしかできませんでしたが、選定には様々な知識が必要とされ、あらゆる情報を網羅していなくてはならないと思いました。

レファレンス業務でも多くのことを体験しました。利用者の求める本が書庫にある場合は司書が探しに行きます。今まで何度も利用してきた県立図書館だったので、建物が4階までであることは知っていましたが、書庫が6層までであることは知らず保存されている資料の数にも驚きました。古くなったり、あまり利用が期待されない資料が書庫に保存されますが、絵本などの児童書は書架の関係もあり比較的新しいものがあって驚きました。また、雑誌のタイトル数は約200と県立としては少ないようですが、新刊をロビーに置き、3ヶ月分を配架し、それ以降のものは書庫に保存しているのでかなりの数になります。分類番号順に並んでいるとはいえ配置に慣れないため、配架には時間がかかった

てしまいました。

コピーサービスも担当しましたが、指定の用紙にコピーするページ数や範囲、利用者情報を記載してもらいます。また、コピー自体はセルフサービスですが取り終わった後は枚数の確認をします。著作権の関係で同じ物を2部複写することはできないので、もし間違えてコピーをし、同じ範囲のものを2部持っている場合は1部こちらで回収しなくてはなりません。こういった著作権の問題は複雑ですが、図書館員が理解しているだけでなく利用者にも分かってもらえるような説明が必要だと思いました。

他にも夜間窓口業務や事業の企画・立案、ふるさと号に乗っての市町村立図書館の巡回業務、「公立図書館の抱える課題」というテーマの意見交換会への参加など盛りだくさんの実習でした。普段から利用している図書館での実習だったので、利用者の立場と図書館職員としての立場との両方からの視点で図書館の一面を見ることが出来、貴重な体験だったと思います。

図書館実習を終えて

実習館：千葉県八街市立図書館 文学部人文学科4年 本多 いずみ

私は、千葉県の八街市立図書館で9月4日から14日まで10日間図書館実習を行いました。

まず、八街市がどんな市であるかということ、県のほぼ中央部、東京から50キロメートル圏内、京葉工業地帯から20キロメートル圏内に位置しています。落花生など農業粗生産額は県下第2位であり、主な産業は農業ですが、近年東京方面への通勤者のベッドタウンとして新しい住宅地がどんどん開発されてきています。現在の人口は約7万5千人です。この人口に図書館が一館しかない状況は他市と比較しても充実しているとはいいいがたいのですが、私は開館当初から慣れ親しんでいた場所で実習を行いたいという希望をかなえることができ、行く前からとても楽しかったです。

毎日の実習は、開館作業から始まります。ブックポストをあけ、返却作業をし、その間に館内のシステムをすべて起動します。そして、新聞を配架します。その後、朝礼、ミーティングをしてやっと開館になります。9時に入り口の自動ドアのスイッチを入れると同時に利用者の方が入ってきます。いよいよ一日の始まりです。

図書館には本当にいろいろな人がやってきます。小さな子供を連れた人から一人で来るお年より、障害者、学校が終わる時間になると、小・中学生が大挙してやって来たりもします。休日になるとさらに多様化します。勉強をする大学生、高校生、サラリーマン風の男性などが加わっていきます。このように、時間や曜日によっても利用者層の違いを感じ取ることができ、本当に興味深いものでした。

その間にも事務室ではさまざま

業務が行われています。資料の発注、受入、装備や書庫編入、予約・リクエストの処理、児童向けおはなし会の準備、相互貸借業務...と休む間もなく職員の方は日常業務をこなし、その合間を縫って私にいろいろと指導してくださいました。

休日は主にカウンター業務に携わったのですが、普段利用している図書館をカウンター越しに眺めるということは非常に新鮮で、視界が全く異なって、緊張もしましたが発見も多くありました。例えば、どんな層の人がどんな本を借りていく傾向があるのか、ということはあるにわかるものでないような思えますが、なんとなく流れが見えるようになったり、(サラリーマン風の人がパソコン関連の本、女子中学生はコバルト文庫、小さな男の子は乗り物の絵本、などわかりやすいものだけですが)どんな本に人気があるのか、ということがわかってきたりもしました。

講義で聴いたことはあっても、実際はどんなふうに図書館が運営されているのか、ということとは本

当に中を見てみないとわからないものだと思います。そして業務の大変さも目の当たりにしました。職員の方は自分の担当分野を持ちつつも、その業務に専念することができない状況にあり、図書館のおかれている現状の厳しさを感じました。

しかし、そんななかでも印象的だったのは毎朝の朝礼で、館長が言っていたことばです。それは、「市民に対して、常に笑顔で接すること。ハード面の充実はなかなかできないけれど、少しでも満足して帰っていただけるようにすること。」というものでした。今できる最大限のサービスを市民に提供しようという姿勢はとても素晴らしいものだと思います。

一番うれしかったことは、実習最終日、土曜日で非常に忙しい日だったのですが、一日カウンター業務に携わり、閉館した後に「立派に職員の一部として機能していたよ」と言ってもらえたことです。とまどうことも多く、職員さんや利用者みなさんに迷惑をかけてしまった部分もありましたが、とても充実した実習でした。



返却された本を処理する本多さん

学芸員課程

Index

- 1 ミニ資料館と巨大博物館での私の経験 32
——専修大学文学部教授 新井 勝紘
- 2 館務実習さまざま 34
——専修大学経営学部教授 内田 欽三
- 3 博物館実習を終えて 35

ミニ資料館と巨大博物館での私の経験

文学部 教授 新井 勝紘

私 は1986年、開館時に総面積150平方メートルしかないごく小さな資料館から（現在は増築されている）その100倍はあろうかと思われる日本でも有数の国立の歴史系博物館と、二つの博物館で総計15年ほど勤務した経験がある。スタッフもミニの方は、専門は私一人であと事務職一人だったが、巨大の方は専門職50人、事務職50人とこれも50倍であった。予算の比較をしたら、もっと大きな違いが出るだろう。数百万と億の単位ということになるだろう。ここではミニでの経験を通して学んだことを少し語ってみたい。

ミニは東京都町田市に全国に先駆けて開館した町田市立自由民権資料館で、そもそも建物の建設から開館時の常設展、さらに年間計画やそのなかでの企画展など、4年ほどの間で資料館がやるべき仕事のある一定の流れを自分なりに作ってきた。設計から建設までを含めると開館よりさらに2年ほど前から関わっていた事になる。さらにいえば、この資料館の土台ともいえる町田という地域史とのかかわりを含めると、開館以来4年という年月の前に、私はすでに17年間もの間、町田市の歴史編纂（町田市史編纂）の仕事に携わってきた。今考えてみると、大学卒業以来、地域の歴史の編纂事業に嘱託という身分で事務局の一員としてかかわってきたことが、知らず知らずの間に私自身の大きな知的及び人的財産の蓄積につながったと思えるのである。それが、最終的にミニ資料館ではあるが、自分の専門とする近代史の中の自由民権運動史の分野で、全国に先駆けての資料館作りにかかわる大きな理由の一つとなったといえる。

館名に“自由民権”が付いたミ

ニージアムは、町田以外に、1983年、福島県田村郡三春町に三春町歴史民俗資料館に併設の形で開館した三春町自由民権記念館を嚆矢とし、さらに「自由民権発祥の地」の碑がたつ高知市に、1990年、高知市制100周年記念事業として、既存の二館より大きな規模でかつ内容的にも充実した市立自由民権記念館が建設された。また民権運動や困民党事件の根拠地の一つでもある福島県喜多方市や、埼玉県秩父郡吉田町にも関係の施設ができています。

こうした全国的な動きは、1980年代に6年ほど続いた「自由民権100年」を記念する全国的な運動が一つの大きな契機となっており、さらに、それぞれの地域でそこに住む住民たちがこの運動を理解し、市民のサポートが建設へむけての大きな力になった。

近代日本の始発の時点での最初で最大の民主主義運動といえる自由民権運動は、こうした博物館や資料館を通して現代の人びとにさまざまなインパクトを与えてくれた。私がかかわった町田市立自由民権資料館は、時期的に三春町と高知市との中間の時点で開設されたが、独自の施設がつくられたという点では、全国トップだった。その資料館の建設過程で、どんな形の資料館にするのか、どんな施設を備えていなければならないか、そこでいったい何をやるのか、展示はどういうコンセプトで行うのか、一世紀前の自由民権運動の資料による歴史再現だけでいいのか、現代の問題にどのようにアプローチしていくのか、などなど、私の頭の中では種々思いが膨らんでいたが、現実にはそう甘いものではなかったことにすぐ気づかされたのである。行政のトップがこの施

設にどのような思いを描いているのかが、具体的な話になるにつれ露見してきたのである。それは当然ながら予算も含め、ハード面もソフト面も両面であるが、担当者である私が構想したものとあまりにもギャップが大きすぎた。そんな施設しか考えていないのだったら、作らなくてもいいのではないかと何度思ったことか。しかし、だからといって全国に先駆けて作ることの意義はどんなかたちであれ大きいものがあるというもう一方の思いと、そのジレンマに日夜悩むことになった。

そこで気がついたのは、ある種の開き直りかも知れないが、こうした施設作りの最大の目的は、その建物の大きさやいかに充実した施設を完備しているかという問題ではないということだった。この建物を通してこれからどういう運営をしていくのか、完成した後の運営を頭に置きながら、たとえどんなに狭くても、どのようなスペースを作り出せるかをきちんと要請していこうという方針にきりかえてから、ずいぶん気が楽になった。そこで働くスタッフも最初に提示されたのは私一人というものであったからなおさらである。考えてみれば唯一私だけの仕事を市の公費で作ってくれると思えばいいのだった。

まず自由民権を担った三多摩の豪農の蔵を思わせるような白壁を基調とする外観にすること（あとになって、民芸風喫茶やウドン店に間違えられて入ってきた方が何人かあった）。また面している街道から直結するのではなく、これから自由民権運動の歴史を学ぶという気持ちを持ってもらうために玄関まで斜面の道を緑のアプローチにし、比較的長くとること。車椅



子でものぼれるようなスロープにすること。土足でずかずか入ってくるのではなく、靴を脱いでスリッパに履き替えてもらい、それまでの外の雰囲気そのままじかにもちこまないようにすること（面倒くさがられるのではないが、あるいは不特定多数の履くスリッパの衛生上の問題はどうかなど意見がだされた）。床はよくあるPタイルではなく、すこしでも暖かいイメージを作るためにフローリングにすること。そこで働く職員と見学者ができるだけ近くにいて、話が聞こえるようにすること、あるいは直接話ができやすい距離にすること。それは見学者から気楽に質問も受けやすい雰囲気づくりでもある（これも職員が落ち着いて仕事ができないのではないかと懸念があった）。ともかく学芸員の顔がまったく見えないという

ことは小さな資料館や博物館では致命的だと考えた。狭い常設展示室ではあるが、その展示室に隣接するような場所に休憩コーナーを設置すること。美術館には座るコーナーが設置されている例が多いが、博物館や資料館にはほとんど無いの現状であった。それを何とか作ろうという魂胆である。それは自分自身の体験から出てきた発想であった。見終わってから、あるいは見ている途中でも数人が腰掛けてその展示について話ができるようなスペースをつくること。ただでさえも狭い展示室なのに、そんな余分な場所をとる余裕は無いというのが大方の意見であったが、強引にそれは押し通した。なぜなら、数人で見学した場合に、今見たその展示についていろいろ語らう場所が必要と感じたからである。

また独自に作る数点の展示ケースは、車椅子に腰掛けてみる場合に、膝から下がそのケースの下に入るようにケースの下に切り込みを入れてもらい、まっすぐに資料をみることができるよう工夫をした。これは実際に見学者からの話を聞いていて思いついたのだった。つまり車椅子で見る場合、どうしても展示ケースに椅子を横付けしないと展示資料に近づけないから、いつもいつも顔を曲げてみるばかりだというなにげない話を耳にしたからだった。健康者には当たり前に見える展示ではあるが、障害者にはいつもいつもくびを曲げてみないと細かいところまで見えないという不満だった。それは些細なことといえるかもしれないが、実は本質をつくものと思ったのだった。これまでの古い形の博物館の姿勢やスタイルではとてもこういうことには気がつかなかっ

ただろう。ただ一方的に見てくれという姿勢がまかり通っていた時代はもう終わったといえるだろう。

それもこれも見学者と職員が近いところにいたから聞こえる話だった。距離の近さだけが問題ではない。姿勢の問題でもあるだろう。見学者とのコミュニケーションをどうとるのはどこの博物館でも悩むところではあるが、ミニ資料館だからこそ本質のところでの相互の通話が可能だった。そのことは、博物館がミニか巨大かの問題ではないことが、100倍も大きな博物館に勤めるようになってからも、私の脳裏を離れなかった。

こんな風に自由民権資料館には、自分のわがままをいくつか通してもらった。それらが成功であったかどうかは見学者の評価に任せるしかないが、そうした試行ができたこと自体私は満足しているし、ミュージアムのこれからのありかたを考える時に、貴重な体験だったと思っている。

私のような個人的な体験が、次にこうした仕事にかかわる学芸担当者や類似の仕事をしている博物館関係者に、できるだけ伝えていくことが大事だし、秘密にするのではなく、お互いに共有財産にしていくこともまた大事なことだと思っている。そのことがこうした箱ものづくりをする場合に、予算や権力を握る行政トップの意識を変えさせることにつながっていけばいいのではないかと考えている。

ナショナル・ミュージアムというマンモス博物館での体験についてはまた別の機会に述べたいと思う。

館務実習さまざま

経営学部 教授 内田 欽三

学

芸員資格を取得しようとする学生は、相変わらず多い。そこには、心底から博物館の学芸員を目指す明確な目的意識が感じられる。あるいは、不況と就職難の昨今、手に職ならぬ、一つでも余分に資格を付けて、自分の可能性を広げたいという切羽詰まった思いも伝わってくる。いずれも、資格取得の重要な動機であろう。昨年、一人の卒業生が、博物館などの展示造作をデザインしたり、実際の施工作業をする一流企業に就職した。その卒業生は学芸員資格取得者であり、就職活動に入るに際して、その資格や履修した関連授業の内容を生かせる《別の道》がないかと探して、そしてチャレンジした成果だった。学芸員資格とは、なにも博物館の学芸員になるためや、履歴書の資格欄を埋めるためだけのものではないことを、この卒業生ははからずも我々に再認識させてくれたのである。学芸員資格、そして他の資格を生かす道はまだまだ様々にありそうだ。

さて、その学芸員資格を取得する最後の難関が、いわゆる《館務実習》である。必修の所定科目単位を取得した学生が、同一年度、

大学における博物館実習の授業とともに、外部の博物館（広い意味での博物館）において一定期間、実際的な経験を交えた実習を受けるのである。毎年、翌年度に館務実習を希望する学生へのガイダンスで

述べることだが、この館務実習探しがちょっと大変だ。一般に、受け入れ人数はさほど多くない。となれば、一大学一名の原則は当然である。さらに、選抜条件がこれに加わる。大学における学部専門の別（考古系の博物館なら、考古学を専攻している学生に限るという感じ）、出身や在住地域（某市の郷土資料館は、同市民に限るという感じ）、さらに学年（なぜか4年生に限るという感じ）。さらに、レポートあり、面接あり、という場合もたまにある。ただし、すべての実習館が同じ選抜条件ではないので、案外助かるのだ。

いよいよ選抜に残ったとしても、まだ安心してはいけな。館によっては、その館のテーマに関する概説書を一冊は読んで《事前学習》せよ、という館もあれば、事前勉強は必要ないけれど、《本気でやる心構え》をしてこい、と厳しく注意する館もある。まあ、どちらも、考え方としてはごもっともである。だが、例外なく言われるのが、遅刻や欠席の厳禁と、礼儀や身だしなみ、積極性といった、当たり前すぎる注意の数々である。



「なあーんだ」と、ここまで読んで、そう思ったあなたなら、館務実習はまったく心配いりませんね。反対に、「やべえ」と、履修をやめたくなった君、そんなに心配する必要もまたないよ。さっきも書いたように、実習館は様々なのだから。どこかに君向きの、やる気の出そうな館があるはず。で、館務実習館を一つ紹介しておこう。今回、私が訪れたのは千葉県立総南博物館。この博物館は千葉県夷隅郡大多喜町にあり、県指定の史跡である大多喜城本丸跡に建つ天守閣づくりの歴史博物館。中心テーマは「房総の城と城下町」。勝浦に抜ける国道の通る町にあるから、一年中来館者が絶えないとのこと。さて、館務実習に受け入れたい学生について館長さんにお話をお伺いした。「受け入れ人数はいかほどでしょう」「まあ、10名程度ですな」「受け入れ学生に、条件などはありますか」「いいえ」「学生は、どんな心構えをすればいいのでしょうか」「義務で受けている、という感じでは困りますな。積極的に実習してもらいたい」

実習館探しから、館務実習は始まる。そして、そのずっと先に、あなたや君の未来の仕事が、見つかる可能性だってあるのだ。



青空にそびえ立つ大多喜城

博物館実習を終えて

実習館：山梨県立文学館 土屋 里花（文学部国文学科3年）

博 物館実習初日に、「来館者数を増やすためにはどうしたらよいだろう…」と言われ、私の博物館実習が始まりました。私は、7月9日から7月14日まで山梨県甲府市にある「山梨県立文学館」で実習させて頂きました。山梨県立文学館は甲府市郊外の芸術の森公園内にあり、向かいには県立美術館があります。文学館は、山梨県出身・ゆかりの文学者、山梨を描いた作品、さらに日本文学史上に大きな業績を残した文学者の資料を収集・保存し、展示によって鑑賞し、研究や学習のために利用する文学館です。

6日間の実習では、前半の3日間は主に山梨県立文学館の学芸課、総務課の業務などの講義が中心でした。後半の3日間は図書整理実習、窓口監視業務実習、資料保存整理実習、企画展示実習、教育普及事業実習など、授業では学ぶことのできないことをたくさん経験させて頂きました。実習はとにかく楽しかったです。私は学芸員の資格と同時に司書の資格の勉強をしています。また、図書館でアルバイトをしているので、文学館で図書整理実習として実際に1人約10冊の本にビニールで本にカバーを付けたり、バーコードや請求記号を貼ったり、また書庫に入って本を配架したりと図書の仕事にも触れることが出来ました。同じように、資料保存整理実習では、尾崎一雄・島崎藤村・夏目漱石などの自筆原稿のコピー（原稿用紙の1枚目）に書かれている題名を見て閲覧室にあるパソコンから所蔵場所を探してから書庫へ行き、全集から初めて掲載された雑誌の現物を見て調査をしました。

実習の中でも最も印象に残ったのは、実習最終日に1日かけて行

った教育普及事業実習です。実習生8人が2人ずつグループを作り、子供、小学生、中学生、高齢者向けに文学館に来てもらえるような企画作りをしました。私たちのグループは小学生をターゲットに、文学館で百人一首をしてもらおうと考えました。百人一首の絵を小学生に見せて、百人一首の和歌から想像をしてもらい、自分が感じたままに絵を書いてもらいます。その後その札を使って百人一首大会をし、書いた絵は企画展示を行っていない夏に特設展として文学館に飾ってもらおうと考えました。そうすることによって、夏休みに普段訪れにくい子供も親と一緒に文学館に気軽に来てもらいたいという狙いもありました。最後に発表する時間もありました。他の人たちがどのような企画を作ったのか興味があったので、それらの発表が聞けたり、学芸員の方々からは、果たして現場で自分たちの企画したものが行えるものなのかといったようなアドバイスや意見を頂けたので参考になりました。

今回の実習は本当に充実したも

のになりました。最初の頃は不安でいっぱいでしたが、8人の実習生とともに力を合わせて最後まで行えたと思います。また、文学館のみなさんには温かく、丁寧に指導してもらえました。実習を行ったことで、授業で聞いただけのことを実際に実感することができました。実際に来館者に対して何かを行ったということはありませんでしたが、自分たちで企画の内容や、どのようにして来館者を増やすかを考えるなど来館者の目に見えない部分を実習し、ほんの一部かもしれませんが学芸員が博物館に対して果たしている役割は非常に大きいものだと感じました。実習初日に言われた、来館者を増やす努力として何が良いのかまだ自分の中で考えていますが、今後授業を受けていく中で自分なりの答えを探していきたいです。6日間という短い間でしたが、とても貴重な体験をすることができたと思います。



山梨県立文学館の前で

博物館実習を終えて

実習館：切手の博物館 山口 彩（文学部国文学科3年）

私は今回目白にある『切手の博物館』で、7日間実習させて頂きました。この博物館では、3ヶ月に一度展示替えが行われており、私の実習内容というのは、その7月から9月までの3ヶ月展示される作品の中の一つを自分の手で作るというものでした。そして展示のテーマは「昆虫」でした。実習期間は7日間だったので、その中でまずどのようなものを作るかアイデアを出したり、資料を探しに町まで出かけたり、材料をリサーチするために何箇所かお店をまわったりしました。本番の工作の前にダミーを1回作ったりと、本格的な作業を行いました。工作のテーマは昆虫なので昆虫の切手を使用し、そしてなおかつ小学校3・4年生が作れるようなものということでした。初めにこの話を聞いた時は、工作をするだけで良いのか、なんだか楽しそうだなと思っていました。しかしいざ実習が始まると、思っていた以上に大変な作業であることに気がつき、少々焦ってしまいました。まず、何事も初めてとりかかることだったので、わからないことや疑問に感じることも多々ありました。もしそういう点が少しでもあれば、なんでも質問しなければなら

ないと思いました。そうしなければ、相手もちゃんと理解してくれているのか不安になってしまうからです。依頼者とのコミュニケーションも大切になってきます。

実際に実習が始まってから、何を作るかアイデアがなかなか固まらず、つまずいてしまうことが多かったです。自分のアイデアを、相手にうまく伝えることの難しさを知りました。自分の頭の中ではイメージが膨らんでいるのですが、それをうまく伝えなければ次に進むことが出来ません。常に、自分が今何をしようとしているのか、目的をもって行動しようと思っていました。小学校3・4年生が対象ということで、いくつかの書店をまわり、児童書コーナーを見たり、他にも昆虫や工作の本なども調べたりしました。普段あまり児童書コーナーなどには行かないので、何だかとても新鮮な感じがしました。それでもアイデアがまとまらず、次は中野区にある『おもちゃ美術館』を訪ねてみました。ここでは小さな子供たちが、実際におもちゃに触れて楽しそうに遊んでいる光景が見られました。私が見てもおもしろいと思うようなおもちゃがたくさんあり、とても勉強になりました。ここで、きっと

とになります。使う材料を選ぶのにも、ただ何となく材料を買うのではなく、様々な観点から物事を考えなければいけません。どの素材がベストか、強度の問題など、ポイントはたくさんあります。そのため、本番の買い物に行く前に一度材料のリサーチにも行きました。ここでもいくつかのお店を自分の足で見てまわり、なかなか体力の要る仕事だなあと実感しました。本番の前にダミーを作ってみて、その改善点などを踏まえながら丸一日かけて工作をしました。私は、磁石を使ってくっつくおもちゃを作りました。これは魚釣りをイメージしていて、魚のかわりに今回のテーマ・昆虫を釣り上げるというものです。ハチミツ好きの虫は釣れるけれど、そうでない虫の切手だと釣れないように工夫しました。作り方説明書も作成したのですが、小さな子供にも難しくないように、図や言葉なども分かりやすく簡単に表すよう努力しました。一番大切なことは、自分の作りたいものを人に押しつけるのではなく、見る人の立場になって物を作ることです。

学芸員という人たちは大変な作業もしますが、相手のことを思いやる心が大切なのだということを教えてくれました。失敗したらそれをバネにし、これからにつなげていきたいと思います。実習を終えて、戸惑うこともありましたが、初めてこのような体験をし、得るものが多かったです。実りのある実習が出来、本当に良かったと思います。

子供たちは実際に手を触れて遊べるものが好きに違いない気がついたのでした。

いよいよ工作のアイデアがまとまり、それを作るにあたっての材料や作り方などを考えるこ



山口さんの作ったおもちゃで遊ぶ来館者の親子

データ編

Index

1 平成13年度資格課程履修者数	38
2 平成13年度教員免許状取得状況一覧	39
3 平成13年度実習先一覧（教育実習）	40
4 平成13年度実習先一覧（図書館実習）	43
5 平成13年度実習先一覧（博物館館務実習）	43
6 主な就職先一覧（教職）	44
7 主な就職先一覧（司書・学芸員）	46
8 平成13年度資格課程年間行事表	47
9 平成13年度資格課程教員紹介	48

平成13年度 資格課程履修者数

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
教 職	経 済	経 済	53	12	37	3	55	7	24	9	169	31	200
		国 際 経 済	16	-	10	-	12	-	5	-	43	-	43
	法	法 律	60	11	49	12	45	3	36	9	190	35	225
	経 営	経 営	26	-	35	-	7	-	13	-	81	-	81
		情 報 管 理	-	-	1	-	1	-	1	-	3	-	3
	商	商 業	34	9	36	7	41	6	33	8	144	30	174
		会 計	5	-	5	-	3	-	2	-	15	-	15
	文	国 文	-	-	42	-	34	-	43	-	119	-	119
		英 米 文	-	-	28	-	29	-	23	-	80	-	80
		人 文	33	-	27	-	42	-	18	-	120	-	120
		心 理	5	-	4	-	1	-	1	-	11	-	11
		日 本 語 日 本 文	73	-	-	-	-	-	-	-	73	-	73
職	英語英米文	英語英米文	37	-	-	-	-	-	-	-	37	-	37
		英語英米文	27	-	-	-	-	-	-	-	27	-	27
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	32	-	-	-	-	-	-	-	32	-	32
	大 学	大 学	-	46	-	-	-	-	-	-	-	46	46
	科 目 等 履 修 生	科 目 等 履 修 生	401	78	274	22	270	16	199	26	1,144	142	1,286
	小 計	小 計											
	合 計	合 計		479		296		286		225		1,286	

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司 書	経 済	経 済	10	2	2	1	1	0	2	1	15	4	19
		国 際 経 済	3	-	1	-	2	-	0	-	6	-	6
	法	法 律	5	3	8	1	3	3	3	0	19	7	26
	経 営	経 営	4	-	5	-	3	-	3	-	15	-	15
		情 報 管 理	-	-	1	-	2	-	0	-	3	-	3
	商	商 業	3	2	3	5	1	0	5	0	12	7	19
		会 計	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
	文	国 文	-	-	22	-	9	-	12	-	43	-	43
		英 米 文	-	-	1	-	3	-	1	-	5	-	5
		人 文	15	-	5	-	7	-	9	-	36	-	36
		心 理	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
		日 本 語 日 本 文	44	-	-	-	-	-	-	-	44	-	44
書	英語英米文	英語英米文	4	-	-	-	-	-	-	-	4	-	4
		英語英米文	3	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	3	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3
	大 学	大 学	4	-	-	-	-	-	-	-	4	-	4
	科 目 等 履 修 生	科 目 等 履 修 生	-	7	-	-	-	-	-	-	-	7	7
	小 計	小 計	95	14	48	7	31	3	35	1	209	25	234
	合 計	合 計		109		55		34		36		234	

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司 書 教 諭	経 済	経 済	3	0	1	0	0	0	0	1	4	1	5
		国 際 経 済	1	-	1	-	1	-	0	-	3	-	3
	法	法 律	1	2	0	1	3	0	5	1	9	4	13
	経 営	経 営	0	-	0	-	1	-	0	-	1	-	1
		情 報 管 理	-	-	0	-	1	-	0	-	1	-	1
	商	商 業	1	0	1	0	2	0	3	3	7	3	10
		会 計	2	-	0	-	0	-	0	-	2	-	2
	文	国 文	-	-	6	-	7	-	11	-	24	-	24
		英 米 文	-	-	1	-	0	-	0	-	1	-	1
		人 文	6	-	7	-	3	-	0	-	16	-	16
		心 理	0	-	2	-	0	-	0	-	2	-	2
		日 本 語 日 本 文	13	-	-	-	-	-	-	-	13	-	13
教 諭	英語英米文	英語英米文	3	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3
		英語英米文	0	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	0	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0
	大 学	大 学	3	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3
	科 目 等 履 修 生	科 目 等 履 修 生	-	13	-	-	-	-	-	-	-	13	13
	小 計	小 計	33	15	19	1	18	0	19	5	89	21	110
	合 計	合 計		48		20		18		24		110	

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
学 芸 員	経 済	経 済	5	2	3	0	5	0	7	0	20	2	22
		国 際 経 済	4	-	4	-	1	-	2	-	11	-	11
	法	法 律	3	2	4	1	6	0	4	0	17	3	20
	経 営	経 営	2	-	7	-	2	-	0	-	11	-	11
		情 報 管 理	-	-	0	-	0	-	1	-	1	-	1
	商	商 業	1	-	4	-	4	2	6	1	15	3	18
		会 計	0	-	0	-	2	-	0	-	2	-	2
	文	国 文	-	-	24	-	11	-	8	-	43	-	43
		英 米 文	-	-	1	-	3	-	4	-	8	-	8
		人 文	31	-	28	-	35	-	35	-	129	-	129
		心 理	2	-	0	-	1	-	0	-	3	-	3
		日 本 語 日 本 文	13	-	-	-	-	-	-	-	13	-	13
員	英語英米文	英語英米文	4	-	-	-	-	-	-	-	4	-	4
		英語英米文	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	大 学	大 学	9	-	-	-	-	-	-	-	9	-	9
	科 目 等 履 修 生	科 目 等 履 修 生	-	5	-	-	-	-	-	-	-	5	5
	小 計	小 計	75	9	75	1	70	2	67	1	287	13	300
	合 計	合 計		84		76		72		68		300	

平成13年度 教員免許取得状況一覧

		免許種類 教科	中学一種				高校一種				中学専修				高校専修				合計					
			社会	国語	英語	小計	地理歴史	公民	商業	国語	書道	英語	小計	社会	国語	英語	小計	地理歴史		公民	商業	国語	英語	小計
生田	一部	経済学科	11			11	14	16	1				31											42
		授与件数	9			9	10	13	0				23											32
		国際経済学科	1			1	1	2	0				3											4
		授与件数	1			1	1	2	0				3											4
		経営学科							7				7											7
		授与件数							6				6											6
		情報管理学科							1				1											1
		授与件数							0				0											0
		商業学科	10			10	11	8	21				40											50
		授与件数	10			10	8	7	19				34											44
		会計学科					0		1				1											1
		授与件数				0			0				0											0
	国文学科	26			26				41	9		50											76	
	授与件数	25			25				38	9		47											72	
	英米文学科			21	21						24	24											45	
	授与件数			21	21						23	23											44	
	人文学科	8			8	9	7					16											24	
	授与件数	7			7	9	5					14											21	
心理学科	0			0		0					0											0		
授与件数	0			0		0					0											0		
経済学													3					4				7		
授与件数												3					4					7		
経営学																	0			0		0		
授与件数																	0			0		0		
商学																	0			0		0		
授与件数																	0			0		0		
文学													13	3	0	16	8	5		3	0	16	32	
授与件数													8	2	0	10	4	4		2	0	10	20	
小計													16	3	0	19	8	9	0	3	0	20	289	
授与件数	30	26	21	77	35	33	31	41	9	24	173	150	11	2	0	13	4	8	0	2	0	14	250	
法律学科	27	25	21	73	28	27	25	38	9	23	150	51										71		
授与件数	20			20	20	31																63		
経済学科	19			19	17	27					44											9		
授与件数	2			2	2	2	3				7											9		
授与件数	1			1	0	2	2				4											5		
申請件数	5			5	2	4					6											11		
授与件数	5			5	2	4					6											11		
商業学科	2			2	1	1	6				8											10		
授与件数	1			1	0	1	5				6											7		
申請件数													0				0		0			0	0	
授与件数													0				0		0			0	0	
科目等履修生	5	1	0	6	7	5	0	2	0	0	14											20		
授与件数	5	1	0	6	7	5	0	2	0	0	14											20		
小計	34	1	0	35	32	43	9	2	0	0	86						0					0	121	
授与件数	31	1	0	32	26	39	7	2	0	0	74						0					0	106	
申請件数	64	27	21	112	67	76	40	43	9	24	259	16	3	0	19	8	9	0	3	0	2	0	410	
合計		58	26	21	105	54	66	32	40	9	23	224	11	2	0	13	4	8	0	2	0	14	356	

平成13年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道・東北	北海道	北海道帯広南商業高等学校	商業	商	商業
	北海道	北海道伊達緑丘高等学校	公民	商	商業
	北海道	北海道函館中部高等学校	公民	経済	経済
	北海道	浦河町立荻伏中学校	公民	経済	経済
	青森県	青森県立三沢商業高等学校	公民	経済	国際経済
	青森県	青森県立百石高等学校	公民	経済	国際経済
	青森県	八戸市立小中野中学校	国語	文	国文
	岩手県	専修大学北上高等学校	商業	経営	情報管理
	岩手県	専修大学北上高等学校	国語	文	国文
	岩手県	専修大学北上高等学校	国語	文	国文
	岩手県	専修大学北上高等学校	公民	文	心理
	岩手県	盛岡市立仙北中学校	社会	経済	経済
	秋田県	秋田県立大曲高等学校	商業	商	商業
	秋田県	秋田県立能代北高等学校	国語	文	国文
	山形県	酒田南高等学校	国語	文	国文
	福島県	福島県立会津女子高等学校	英語	文	英米文
	福島県	福島県立喜多方商業高等学校	商業	経営	経営
	福島県	松韻学園福島高等学校	地理歴史	商	商業
	福島県	福島市立福島第一中学校	英語	文	英米文
関東	茨城県	茨城県立神栖高等学校	商業	商	商業
	茨城県	茨城高等学校	国語	文	国文
	茨城県	水海道市立鬼怒中学校	国語	文	国文
	茨城県	石下町立石下中学校	国語	文	国文
	茨城県	北茨城市立中郷中学校	社会	経済	経済
	栃木県	栃木県立宇都宮中央女子高等学校	国語	文	国文
	栃木県	栃木県立黒磯高等学校	国語	文	国文
	栃木県	栃木県立大田原女子高等学校	英語	文	英米文
	栃木県	栃木県立栃木高等学校	地理歴史	文	人文
	栃木県	栃木県立栃木女子高等学校	国語	文	国文
	栃木県	國學院大學栃木高等学校	地理歴史	文	人文
	栃木県	足利市立西中学校	地理歴史	文学	史学
	栃木県	鹿沼市立東中学校	英語	文	英米文
	栃木県	西那須野町立西那須野中学校	英語	文	英米文
	群馬県	群馬県立渋川青翠高等学校	商業	商	商業
	群馬県	群馬県立沼田女子高等学校	国語	文	国文
	埼玉県	埼玉県立坂戸高等学校	公民	文	人文
	埼玉県	埼玉県立所沢北高等学校	地理歴史	経済	国際経済
	埼玉県	埼玉県立所沢商業高等学校	商業	経営	経営
	埼玉県	埼玉県立本庄高等学校	地理歴史	経済	経済
	埼玉県	大宮市立大宮西高等学校	国語	文	国文
	埼玉県	春日部共栄高等学校	地理歴史	経済	経済
	埼玉県	星野女子高等学校	国語	文	国文
	埼玉県	川越市立高階西中学校	国語	文	国文
	埼玉県	所沢市立山口中学校	社会	商	商業
	埼玉県	本庄市立本庄東中学校	英語	文	英米文
	埼玉県	毛呂山町立川角中学校	社会	文	人文
	千葉県	千葉県立君津高等学校	国語	文	国文
	千葉県	千葉県立成東高等学校	地理歴史	文	人文
	千葉県	柏市立柏高等学校	地理歴史	経済	経済
	千葉県	専修大学松戸高等学校	国語	文	国文
	千葉県	専修大学松戸高等学校	国語	文	国文
	千葉県	日出学園高等学校	地理歴史	商	商業
	千葉県	船橋市立宮本中学校	英語	文	英米文
	東京都	東京都立赤坂高等学校	商業	経営学	経営学
	東京都	東京都立汧江高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	東京都立第一商業高等学校	商業	経営	経営
	東京都	東京都立桜町高等学校	地理歴史	文学	史学
	東京都	東京都立城東高等学校	公民	経済	経済

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	東京都立城東高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立調布北高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	東京都立東大和南高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立日野台高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	東京都立三鷹高等学校	英語	文	英米文
	東京都	東京都立南平高等学校	英語	文	英米文
	東京都	東京都立南平高等学校	英語	文	英米文
	東京都	東京都立武蔵高等学校	地理歴史	商	商業
	東京都	江戸川女子高等学校	国語	文	国文
	東京都	京華商業高等学校	商業	商	商業
	東京都	正則高等学校	国語	文	国文
	東京都	聖徳学園高等学校	公民	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	国際経済
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英米文
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	文	人文
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文学	史学
	東京都	日本大学第三高等学校	公民	商	商業
	東京都	世田谷区立尾山台中学校	英語	文	英米文
	東京都	世田谷区立芦花中学校	社会	文	人文
	東京都	中央区立銀座中学校	社会	文学	史学
	東京都	中野区立第九中学校	国語	文	国文
	東京都	聖心女子学院中等科	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立厚木商業高等学校	商業	商	商業
	神奈川県	神奈川県立厚木西高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	地理歴史	商	商業
	神奈川県	神奈川県立荏田高等学校	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立大磯高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立上溝南高等学校	地理歴史	商	商業
	神奈川県	神奈川県立岸根高等学校	地理歴史	文	人文
	神奈川県	神奈川県立多摩高等学校	公民	文	人文
	神奈川県	神奈川県立西湘高等学校	公民	商	商業
	神奈川県	神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校	地理歴史	商	商業
	神奈川県	神奈川県立横須賀大津高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	横浜市立港高等学校	商業	商	会計
	神奈川県	横浜市立南高等学校	公民	経済	国際経済
	神奈川県	日本大学藤沢高等学校	公民	経済	経済
	神奈川県	横須賀学院高等学校	地理歴史	文	人文
	神奈川県	横浜創英短期大学女子高等学校	商業	経営	経営
	神奈川県	横浜商科大学高等学校	商業	商	会計
	神奈川県	横浜商科大学高等学校	商業	商	商業
	神奈川県	川崎市立川崎中学校	社会	経済	経済
	神奈川県	座間市立東中学校	社会	商	商業
	神奈川県	藤沢市立御所見中学校	社会	商	商業
	神奈川県	藤沢市立湘洋中学校	社会	経済	経済
	神奈川県	大和市立大和中学校	英語	文	英米文
	神奈川県	横浜市立荏田南中学校	英語	文	英米文
	山梨県	山梨県立吉田高等学校	英語	文	英米文

平成13年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	商業	商	商業
	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	商業	商	商業
	山梨県	日本大学明誠高等学校	公民	商	商業
	山梨県	都留市立都留第一中学校	英語	文	英米文
北陸	富山県	富山県立富山南高等学校	公民	経済	経済
	富山県	黒部市立高志野中学校	国語	文	国文
	石川県	石川県立金沢二水高等学校	国語	文	国文
	石川県	金沢市立工業高等学校	公民	経済	経済
信越	石川県	星稜高等学校	商業	経営	経営
	福井県	福井県立敦賀高等学校	商業	経営	経営
	新潟県	新潟県立柏崎常盤高等学校	国語	文	国文
	新潟県	新潟県立高田高等学校	英語	文	英米文
東海	新潟県	新潟県立十日町高等学校	英語	文学	英文学
	新潟県	新潟県立新潟江南高等学校	英語	文	英米文
	新潟県	新潟明訓高等学校	国語	文	国文
	新潟県	佐和田町立佐和田中学校	社会	文	人文
近畿	長野県	長野県野沢南高等学校	地理歴史	商	商業
	長野県	上田市立第六中学校	英語	文	英米文
	岐阜県	岐阜県立岐阜商業高等学校	商業	経営	経営
	岐阜県	岐阜県立岐阜女子商業高等学校	商業	商	商業
中国	静岡県	静岡県立御殿場南高等学校	国語	文	国文
	静岡県	静岡県立富士東高等学校	国語	文	国文
	静岡県	静岡県立富士東高等学校	英語	文	英米文
	静岡県	静岡県立富士宮西高等学校	公民	経済	経済
四国	静岡県	静岡県立三島北高等学校	国語	文	国文
	静岡県	伊東市立宇佐美中学校	国語	文	国文
	静岡県	静岡大学教育学部附属島田中学校	社会	商	商業
	愛知県	愛知県立昭和高高等学校	地理歴史	商	商業
九州・沖縄	愛知県	田原町立田原中学校	国語	文	国文
	三重県	三重県立宇治山田商業高等学校	商業	商	商業
	京都府	京都学園高等学校	商業	経営	経営
	兵庫県	兵庫県立三原高等学校	商業	経営	経営
九州・沖縄	鳥取県	鳥取城北高等学校	商業	商	商業
	鳥取県	米子市立福生中学校	社会	経済	経済
	岡山県	金光学園高等学校	国語	文	国文
	広島県	広島高等学校	地理歴史	商	商業
九州・沖縄	山口県	山口県立光高等学校	国語	文	国文
	山口県	下関市立向洋中学校	公民	経済	経済
	香川県	香川県立高松商業高等学校	商業	商	商業
	愛媛県	丹原町立丹原東中学校	社会	文学	史学
九州・沖縄	高知県	赤岡町吉川村中学校組合立赤岡中学校	社会	文	人文
	熊本県	熊本市立千原台高等学校	商業	商	商業
	熊本県	専修大学玉名高等学校	公民	文	人文
	大分県	大分県立日田高等学校	国語	文	国文
九州・沖縄	宮崎県	宮崎市立生目台中学校	国語	文	国文
	沖縄県	沖縄県立浦添商業高等学校	商業	商	商業
	沖縄県	沖縄県立名護高等学校	地理歴史	文	人文
	沖縄県	玉城村立玉城中学校	英語	文	英米文

平成13年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	茨城県	茨城県立下館第一高等学校	地理歴史	法	法律
	埼玉県	埼玉県立春日部東高等学校	公民	法	法律
	埼玉県	埼玉県立熊谷西高等学校	地理歴史	法	法律
	埼玉県	埼玉県立越谷北高等学校	公民	法	法律
	埼玉県	大宮市立大宮北高等学校	公民	法	法律
	千葉県	千葉県立君津高等学校	公民	法	法律
	千葉県	銚子市立銚子西高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	植草学園文化女子高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	法	法律
	千葉県	東邦大学附属東邦高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	白子町立白子中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都立城東高等学校	公民	法	法律
	東京都	東京都立八丈高等学校	公民	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	法律

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	専修大学附属高等学校	公 民	法	法律
	東京都	東亜学園高等学校	地理歴史	法	法律
	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	公 民	法	法律
	神奈川県	神奈川県立大磯高等学校	公 民	法	法律
	神奈川県	神奈川県立上溝南高等学校	地理歴史	法	法律
	神奈川県	相模原市立中央中学校	社 会	法	法律
	神奈川県	三浦市立初声中学校	社 会	法	法律
北陸	富 山 県	富山県立桜井高等学校	公 民	法	法律
信越	新 潟 県	中里村立中里中学校	社 会	法	法律
	長 野 県	長野県長野北高等学校	公 民	法	法律
東海	静 岡 県	静岡県立掛川西高等学校	地理歴史	法	法律
	静 岡 県	静岡県立静岡東高等学校	地理歴史	法	法律
近畿	兵 庫 県	三田学園高等学校	地理歴史	法	法律
四国	徳 島 県	徳島県立城ノ内高等学校	公 民	法	法律
九州	宮 崎 県	宮崎県立戸城西高等学校	公 民	法	法律
	宮 崎 県	宮崎県立宮崎北高等学校	公 民	法	法律

平成13年度 教育実習先一覧（2部）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	北海道	北海道旭川陵雲高等学校	地理歴史	履修生	
	岩手県	岩手県立大船渡高等学校	地理歴史	経済	経済
	茨城県	江戸崎町立江戸崎中学校	社会	法	法律
	群馬県	太田市立商業高等学校	商業	経済	経済
	埼玉県	埼玉県立越谷総合技術高等学校	商業	商	商業
	埼玉県	埼玉県立狭山経済高等学校	商業	商	商業
	埼玉県	花咲徳栄高等学校	商業	経済	経済
	千葉県	市原市立姉崎東高等学校	社会	法	法律
	東京都	東京都立池袋商業高等学校	商業	履修生	
	東京都	東京都立芝商業高等学校	商業	商	商業
	東京都	東京都立高島高等学校	地理歴史	履修生	
	東京都	東京都立府中高等学校	地理歴史	履修生	
	東京都	東京都立保谷高等学校	公民	履修生	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	東京都立明正高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	東京都立四谷商業高等学校	商業	商	商業
	東京都	駿台学園高等学校	公民	経済	経済
	東京都	東京経営短大村田女子高等学校	商業	商	商業
	東京都	青梅市立泉中学校	社会	法	法律
	東京都	江東区立深川第二中学校	社会	法	法律
	東京都	中野区立第二中学校	社会	法	法律
	神奈川県	神奈川県立大和南高等学校	公民	経済	経済
	神奈川県	横浜市立栗田谷中学校	社会	商	商業
	香川県	香川県立香川中央高等学校	地理歴史	法	法律
九州	福岡県	福岡県立田川高等学校	地理歴史	法	法律
	熊本県	熊本市立東野中学校	社会	履修生	
	鹿児島県	枕崎市立枕崎中学校	社会	商	商業

平成13年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生	
			学部	学科
関東	群馬県	邑楽町立図書館	文	人文
	千葉県	浦安市立中央図書館	商	商業
	千葉県	袖ヶ浦市立中央図書館	商	商業
	東京都	立川市立中央図書館	文	国文
	神奈川県	鎌倉市中央図書館	文	人文
	神奈川県	川崎市立多摩図書館	文	国文
	神奈川県	藤沢市総合市民図書館	文	英米文
	神奈川県	湯河原町立図書館	文	人文
	山梨県	石和町立図書館	文	人文
	山梨県	大月市立図書館	履修生	

平成13年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生	
			学部	学科
北海道・東北	北海道	市立函館博物館	文	人文
	山形県	米沢市立上杉博物館	文	人文
	福島県	いわき市立美術館	法	法律
関東	福島県	福島県立博物館	文	国文
	茨城県	幕末と明治の博物館	文	人文
	群馬県	北橋村歴史民俗資料館	文	人文
	群馬県	群馬県立歴史博物館	文学	史学
	群馬県	高崎市少年科学館	文	人文
	群馬県	東毛歴史資料館	文	人文
	埼玉県	朝霞市博物館	経済	経済
	埼玉県	浦和市青少年宇宙科学館	文	人文
	埼玉県	橘川市歴史民俗資料館	文	人文
	埼玉県	上福岡市立歴史民俗資料館	法	法律
	埼玉県	埼玉県立博物館	文	人文
	埼玉県	シラサギ記念自然史博物館	商	商業
	埼玉県	蕨市立歴史民俗資料館	文	人文
	千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館	商	商業
	千葉県	川村記念美術館	文	人文
	千葉県	千葉県立現代産業科学館	文	人文
	千葉県	千葉市花の美術館	文	人文
	千葉県	流山市立博物館	文学	史学
	千葉県	野田市郷土博物館	文	国文
	東京都	板橋区立熱帯環境植物館	経済	経済
	東京都	科学技術館	文	人文
	東京都	紙の博物館	文	国文
	東京都	しながわ水族館	文	人文
	東京都	渋谷区立松濤美術館	文	国文
	東京都	昭和のくらし博物館	文	人文
	東京都	杉並区立郷土博物館	文	人文
	東京都	世田谷区立郷土資料館	文	人文
	東京都	地下鉄博物館	商	商業
	東京都	秩父宮記念スポーツ博物館	法	法律
	東京都	調布市郷土博物館	文学	史学
	東京都	通信総合博物館	経済	経済
	東京都	東京都井の頭自然文化園	文	人文
	東京都	東京都江戸東京博物館	文学	史学
	東京都	東京都恩賜上野動物園	文	英米文
	東京都	東京都近代文学博物館	文	人文

	所在地	実習館名	実習学生	
			学部	学科
関東	東京都	東京都薬用植物園	商	会計
	東京都	八王子市郷土資料館	文	国文
	東京都	東村山ふるさと歴史館	法	法律
	東京都	町田市立博物館	文学	史学
	東京都	三井文庫別館	法	法律
	東京都	明治大学刑事博物館	文	人文
	東京都	明治大学考古学博物館	文	人文
	東京都	横山大観記念館	文	国文
	神奈川県	神奈川県立金沢文庫	文	人文
	神奈川県	神奈川県立歴史博物館	文	人文
	神奈川県	川崎市青少年科学館	法	法律
	神奈川県	川崎市立日本民家園	法	法律
	神奈川県	北鎌倉美術館	文	人文
	神奈川県	相模原市立博物館	文	人文
	神奈川県	シルク博物館	文	国文
	神奈川県	箱根おもちゃ博物館	経営	経営
	神奈川県	箱根彫刻の森美術館	文	人文
	神奈川県	馬事文化財団	経済	国際経済
	神奈川県	秦野市立榎土手古墳展示館	文	人文
	神奈川県	藤沢市江の島植物園	文	心理
	神奈川県	藤沢市湘南台文化センター・こども館	文	人文
	神奈川県	大和市教育委員会	文	人文
信越	新潟県	佐渡博物館	文学	史学
	新潟県	新潟県立自然科学館	文	人文
	新潟県	新潟市美術館	文	国文
	長野県	志賀山文庫	商	商業
	長野県	下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館	文	人文
	長野県	信州新町美術館	文	人文
北海道	富山県	富山市民俗民芸村	文	人文
	静岡県	石廊崎ジャングルパーク	経済	経済
	静岡県	ベルナル・ビュフェ美術館	経済	国際経済
	静岡県	三嶋大社宝物館	文	国文
中国	広島県	広島県立美術館	文	人文
	広島県	広島県立歴史博物館	経済	経済
	山口県	下関市立考古博物館	商	商業
九州	鹿児島県	鹿児島市立ふるさと考古歴史館	文	国文

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年度・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成10年度	平 5 経済・経済	新潟県新発田中央高等学校	専 任	公民・地歴
	平 8 法・法律	宮崎県宮崎市立穂中学校	専 任	社 会
	平10 法・法律	千葉県専修大学松戸高等学校	非 常 勤	公 民
	平10 法・法律	長野県諏訪清陵高等学校	非 常 勤	公民・地歴
	平 9 経営・経営	熊本県熊本市立商業高等学校	専 任	商 業
	平 6 商・商業	高等学校（東京都）		商 業
	平 7 商・商業	東京都立赤羽商業高等学校	専 任	商 業
	平10 商・商業	青森県立弘前中央高等学校	非 常 勤	商 業
	平10 商・商業	東京都東亜学園高等学校校	専 任	商 業
	平10 商・商業	新潟県立八海高等学校	専 任	商 業
	平10 文・国文	福島県松韻学園福島高等学校	常 勤	国 語
	平10 文・国文	新潟県立糸魚川白嶺高等学校	専 任	国 語
	平10 文・国文	岩手県専修大学北上高等学校	専 任	国 語
	平10 文・英米文	東京都板橋区立成増小学校	期 限 付	そ の 他
	平10 文・英米文	福島県泉崎村立泉崎中学校	専 任	英 語
	平10 文・英米文	栃木県立小山城南高等学校	専 任	英 語
	平 6 文・人文	島根県立松江高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平10 文・人文	東京都東京共育学園高等学校	専 任	公 民
	平10 文・人文	高等学校（宮城県）		地 理 歴 史
	平10 院文・修士	東京都立教文学院中学校・高等学校	専 任	地 理 歴 史
平成11年度	平10 院法・修士	東京都文教大学附属高等学校	専 任	公 民
	平10 院文・博士	神奈川県光明学園相模原高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平11 経済・経済	北海道えりも町立えりも高等学校	常 勤	公 民
	平 8 法・法律	東京都専修大学附属高等学校	専 任	公 民
	平 9 法・法律	神奈川県横浜市立深谷中学校	非 常 勤	社 会
	法・法律	千葉県浦安市立浦安中学校	非 常 勤	社 会
	平11 経営・経営	福島県立須賀川高等学校	常 勤	商 業
	平11 経営・経営	東京都立大島高等学校	専 任	商 業
	平11 商・商業	東京都立赤羽商業高等学校	専 任	商 業
	平 6 商・商業	東京都立台東商業高等学校	専 任	商 業
	平 7 商・商業	東京都立池袋商業高等学校	専 任	商 業
	平 9 商・商業	北海道歌志内高等学校	専 任	公 民
	平11 商・会計	長野県松商学園高等学校	常 勤	商 業
	平 8 文・国文	宮城県石越町立石越中学校	専 任	国 語
	平11 文・国文	大分県昭和女子高等学校	非 常 勤	国 語
	平11 文・国文	北海道紋別市立潮見中学校	常 勤	国 語
	平 7 文・英米文	栃木県宇都宮市立鬼怒中学校	専 任	英 語
	平 9 文・英米文	青森県立八戸東高等学校	専 任	英 語
	平10 文・英米文	神奈川県小田原市立白鷗中学校	専 任	英 語
	平11 文・英米文	岩手県立千厩東高等学校	常 勤	英 語
	平11 文・英米文	千葉県柏市立酒井根中学校	非 常 勤	英 語
	平11 文・英米文	東京都正則学園高等学校	非 常 勤	英 語
	平11 文・英米文	山梨県立ふじざくら養護学校	非 常 勤	英 語
	平11 文・英米文	栃木県今市市立落合中学校	専 任	英 語
	文・人文	新潟県立南城高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平 8 院文・修士	東京学芸大学附属大泉高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平 9 院文・修士	栃木県立壬生高等学校	専 任	英 語
	平11 院文・修士	東京都保善高等学校	非 常 勤	英 語
	平11 院文・修士	東京都文教大学附属中学校・高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平11 院文・修士	熊本県専修大学玉名高等学校	常 勤	国 語

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年度・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成12年度	経済・経済	鹿児島県吾平町立吾平中学校	専 任	社 会
	法・法律	山梨県立甲府昭和高等学校	専 任	公 民
	平12 経営・経営	香川県立丸亀城西高等学校	常 勤	商 業
	平12 経営・経営	長野県赤穂高等学校	専 任	商 業
	平12 経営・経営	新潟県立栃尾高等学校	非 常 勤	商 業
	平 6 商・商業	北海道豊浦高等学校	専 任	商 業
	平11 商・商業	東京都立五日市高等学校	非 常 勤	商 業
	平12 商・商業	倉敷市立児島第一高等学校	専 任	商 業
	平12 商・商業	静岡県立小笠高等学校	非 常 勤	商 業
	平12 文・国文	福島県立光南高等学校	期 限 付	国 語
	平12 文・国文	佐藤栄学園	常 勤	国 語
	平12 文・国文	日本体育大学荏原高等学校	非 常 勤	国 語
	平12 文・国文	横浜市立戸塚高等学校	非 常 勤	国 語
	平12 文・国文	駒場学園高等学校	非 常 勤	国 語
	平 8 文・英米文	東京都立国分寺高等学校	専 任	英 語
	平11 文・英米文	松韻学園福島高等学校	常 勤	英 語
	平11 文・英米文	佼成学園中・高等学校	専 任	英 語
	平11 文・英米文	福島県立喜多方商業高等学校	専 任	英 語
	平12 文・英米文	八王子高等学校	専 任	英 語
	平11 文・人文	花咲徳栄高等学校	専 任	社 会
	平12 院文・修士	専修大学松戸高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平12 院文・修士	東京農業大学第三高等学校	非 常 勤	国 語
	平12 院文・修士	二松学舎大学附属高等学校	非 常 勤	公 民
	平12 院文・修士	武蔵工業大学附属中学・高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
平成13年度	平10 経済・経済	千葉県立市原八幡高等学校	非 常 勤	公 民
	平10 経済・経済	横手市立鳳中学校	専 任	社 会
	平 6 法・法律	さいたま市立三室小学校	専 任	
	平 9 法・法律	国分寺市立第二小学校	専 任	
	平11 法・法律	尼崎市立武庫北小学校	非 常 勤	
	平12 法・法律	江戸川区立二之江中学校	非 常 勤	社 会
	平13 法・法律	柏高等技術学園	専 任	公 民
	平10 法・法律	八戸工業大学第二高等学校	非 常 勤	公 民
	平11 法・法律	横浜市立原中学校	非 常 勤	社 会
	平12 経営・経営	東京都経営短大村田女子高等学校	専 任	商 業
	平12 商・商業	群馬県立前橋商業高等学校	非 常 勤	商 業
	平12 商・商業	静岡県立相良高等学校	専 任	商 業
	平13 商・商業	甲府市立甲府商業高等学校	期 限 付	商 業
	平13 商・商業	静岡県立焼津水産高等学校	常 勤	商 業
	平12 文・国文	座間市立相模中学校	常 勤	国 語
	平13 文・国文	水原町立水原中学校	専 任	国 語
	平13 文・国文	日出女子学園中・高等学校	期 限 付	国 語
	平13 文・国文	目白学園中・高等学校	非 常 勤	国 語
	平 4 文・人文	えびの高原国際高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平 8 文・人文	新潟県立巻工業高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平12 文・人文	横浜市立浜中学校	専 任	社 会
	平12 文・人文	北海道羽幌高等学校	専 任	公 民
	平13 文・人文	流山市立小山小学校	期 限 付	生 活 科
	平13 文・人文	不二女子高等学校	期 限 付	地歴・公民
	平11 院文・修士	狭山ヶ丘高等学校	専 任	国 語
	平13 院文・修士	東海大学付属高輪台高等学校	非 常 勤	英 語
	平13 院文・修士	新田町立生品小学校	非 常 勤	社 会
	平12 院文・修士	熊本中央女子高等学校	非 常 勤	国 語

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

卒業年度・学部・学科	勤務先
平 8 文・人文	東京大学法学部図書館
平 8 文・国文	杉並区立中央図書館（東京都）
平 8 法・法律	瀬高町立図書館準備室（福岡県）
昭和46 文・人文	東京福祉商経専門学校図書室
平 8 文・国文	桂村立図書館（茨城県）
昭和57 文・人文	市川市東国分中学校
平 9 文・人文	見附市立図書館（新潟県）
平 9 文・人文	女子栄養大学図書館
平 6 文・国文	下妻市立図書館準備室（茨城県）
平 9 文・国文	八街市立図書館（千葉県）
平 9 法・法律	日外アソシエーツ（株）
平10 文・国文	鷺湖書房
平10 文・国文	長岡市立中央図書館（新潟県）
平 9 文・人文	東京医科大学図書館
平11 商・商業	有隣堂
平13 文・国文	実践女子大学図書館
平13 文・国文	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
平12 文・国文	青山学院女子短期大学図書館
平14 経・経済	千葉明德短期大学図書館

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	
宮城県一迫町役場	山武郡埋蔵文化財センター
秋田県埋蔵文化財センター	国立西洋美術館
下妻市ふるさと博物館	調布市郷土博物館
玉造町資料館	東京国際美術館
栃木県埋蔵文化財センター	東京都埋蔵文化財センター
栃木県立博物館	明治大学考古学博物館
群馬県埋蔵文化財センター	福井県立博物館
富岡市立美術館博物館福沢一郎記念美術館	高山市歴史民俗資料館
入間市郷土博物館	MOA美術館
鳥羽水族館	行田市郷土博物館
高松市歴史資料館	埼玉県埋蔵文化財センター
浦和市くらしの博物館民家園	逓信総合博物館
矢島町立郷土資料館	野田市郷土博物館
乃村工芸社	

平成13年度 資格課程年間行事表

課程		教 職 課 程		司 書 課 程		司 書 教 諭 課 程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）							
	中 旬	履 修 届 お よ び 履 修 修 正（全学年）							
		介護等体験オリエンテーション	2・3・4	司書課程学生 相談会	4				
5月	上 旬	教育実習事前ガイダンス	4					博物館実習事前ガイダンス	3・4
		実習希望校との内諾交渉	3						
	中 旬	教育実習登録ガイダンス	3						
	下 旬	介護等体験事前講習会	2・3・4						
6月	上 旬	教育実習開始 （5月下旬～9月中旬）	4					博物館見学実習	4
	中 旬	教育免許状一括申請ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （3年次までに司書 教諭の単位をすべて 修得した者）	4		
	下 旬								
7月	下 旬	前 期 試 験（全 学 年）							
		夏 期 休 暇（7月下旬～9月上旬）							
8月				図書館実習	4		4	博物館実習（館務実習）	3・4
		夏 期 休 暇							
9月	上 旬	前 期 追 試 験（全 学 年）							
	中 旬	教育実習内諾書の提出 教員免許状授与願ガイ ダンス	3 4	司書製本講習	3・4				
10月	下 旬	教職公開講座	1～4					博物館実習登録ガイダンス	2・3
11月	上 旬					司書教諭修了証書 申請ガイダンス （4年次で司書教 諭の単位を履修し た者）	4		
	下 旬	教育学会	1～4					実習希望博物館との内諾交渉	2・3
12月	中 旬							学芸員資格取得証明書申 請手続き	4
1月	上 旬 下 旬	後 期 試 験・学 年 末 試 験（全 学 年）							
2月	下 旬	追 試 験（全 学 年）							
3月	上 旬							博物館実習承諾書の提出	2・3
	中 旬	教員免許状の交付	4					学芸員資格取得証明書の交付	4

平成13年度 資格課程教員紹介

《司書・司書教諭》

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教 授	梶山喜代子	教育心理学
経済学部	助 教 授	矢吹 芳洋	公民科教育法
法 学 部	教 授	広瀬 裕子	教育行政学
法 学 部	教 授	渡部 光	教育人類学
法 学 部	助 教 授	家永 登	法律学
経営学部	教 授	嶺井 正也	教育行政学
商 学 部	教 授	蔭山 雅博	地理歴史科教育法
商 学 部	教 授	中野 育男	商業科教育法
商 学 部	助 教 授	小峰 直史	特別活動論
文 学 部	教 授	青木美智男	日本史
文 学 部	教 授	伊部 哲	英語科教育法
文 学 部	教 授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文 学 部	教 授	高橋 貢	国語科教育法
文 学 部	教 授	仲川 恭司	書道科教育法
文 学 部	教 授	松尾 容孝	地理学
文 学 部	教 授	矢野 建一	日本史
文 学 部	助 教 授	近江 吉明	外国史
文 学 部	助 教 授	砂原 由和	教育方法論
経済学部	兼任講師	大熊 光穂	心理学
経済学部	兼任講師	斎藤 利彦	社会科教育法
経済学部	兼任講師	和井田清司	社会科教育法
法 学 部	兼任講師	樋口 州男	日本史
法 学 部	兼任講師	岩間 秀幸	道德教育の研究
法 学 部	兼任講師	柏木 敦	道德教育の研究
法 学 部	兼任講師	関根 照彦	法律学
経営学部	兼任講師	田口 康明	比較教育学
商 学 部	兼任講師	井出 功孝	特別活動論
商 学 部	兼任講師	谷 秀雄	倫理学
商 学 部	兼任講師	前川 明彦	地理学
商 学 部	兼任講師	毛利 豊史	倫理学
文 学 部	兼任講師	大熊 徹	国語科教育法
文 学 部	兼任講師	齋藤 純	地理歴史科教育法
文 学 部	兼任講師	澤邊 和浩	外国史
文 学 部	兼任講師	角田 清美	地誌学
文 学 部	兼任講師	手嶋 将博	教育方法論
文 学 部	兼任講師	豊田 一男	英語科教育法
文 学 部	兼任講師	西田 暢子	外国史
文 学 部	兼任講師	藤江 康彦	教育方法論
文 学 部	兼任講師	町田 洋	地理学
文 学 部	兼任講師	渡辺 千歳	発達・学習心理学

《司書・司書教諭》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	助 教 授	荻原 幸子	図書館概論
文 学 部	教 授	後藤 暢	図書館特論
経済学部	兼任講師	中島 宏	マスコミュニケーション
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報検索
法 学 部	兼任講師	田中 功	情報検索
法 学 部	兼任講師	水上 和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	竹内 紀吉	図書館サービス論
経営学部	兼任講師	山田 節子	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	小黒 浩司	図書及び図書館史
文 学 部	兼任講師	小林 和夫	マスコミュニケーション
文 学 部	兼任講師	塚原 博	児童サービス論

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	助 教 授	内田 欽三	博物館学
文 学 部	教 授	亀井 明德	博物館実習

パッソ・ア・パッソ第4号が完成しました。今回もまた、多数の方々に執筆していただくことができました。

本学の教職課程で国語科教育法等を担当していただいている高橋貢先生には、「近頃の世界の諸問題について考えること」をご執筆いただきました。第2号に続く執筆となります。国語科教育は、「生きる力」の育成をめざす新カリキュラムによって「話しことば」重視が打ち出されましたが、これは日本の教育の基本的な問題点でもある近世以来の寺子屋方式の指導方法の弱点を克服するもので、歓迎すべきであるとされています。極めて示唆に富むもので、学力低下論の観点から批判されている新カリキュラムを考える重要な視点を提示していただきました。高橋先生は、1980年4月より、23年間の長きに渡り本学の教職課程の発展に尽力して下さいましたが、来年の2003年3月をもって退職されることになりました。これまでのご尽力に、我々スタッフ一同、心より感謝申し上げる次第です。

同じく教職課程に所属するネットワーク情報学部の方原由和先生からは、在外研究で本年3月までアメリカ合衆国に滞在された際の体験を通して見た現地の教育事情を、また本年4月より教職課程のスタッフとしてお迎えした経済学部の青木みのり先生には、着任以前に勤務されたスクールカウンセラーの一日の仕事の流れを紹介していただきました。

司書・司書教諭課程の非常勤講師として来ていただいている山田節子先生には、本学での授業実践をご紹介いただきました。受講生との積極的な対話の中で授業が進められている様子がうかがえます。

文学部教授の新井勝紘先生には、本学着任以前に勤務されていた町田市立自由民権資料館での仕事を紹介していただきました。ミニ資料館のスタッフとして、設計、建設の段階から館の運営まで一人でこなした苦労や喜びが記されています。

この他、各課程のOB、OGから職場紹介や実践報告、教員採用試験体験記を、また教職・司書・司書教諭・学芸員課程の学生諸君からそれぞれの実習体験記を、そして教職課程の中学校免許状取得希望者からは介護等の体験記を執筆していただきました。

パッソ・ア・パッソは、資格取得をめざす本学の学生を支援する冊子です。我々スタッフは、パッソ・ア・パッソの名のとおり、資格取得をめざす学生の一步步の確かな歩みを支えていきたいと考えています。資格課程のさらなる飛躍とパッソ・ア・パッソの発展のため、皆様からの建設的かつ忌憚のないご意見をお寄せいただきたいと思います。

最後に、ご多忙の中、ご執筆いただいた先生方および学生諸君に、また編集に尽力して下さいました教務課のスタッフの皆さんに改めて感謝の意を表したいと思います。

2002年11月1日

資格課程年報編集委員会

編集委員長 矢吹 芳洋

編集委員 内田 欽三

荻原 幸子

桐生まい子

教職・教育学研究室－たまごの会－ 新年度の活動について

教職・教育学研究室の目的

本研究室は「素敵な教師」に「なり、そして成長する」ことを目的として立ち上げた研究組織である。教師としての指導力向上、教員採用試験の突破、そして豊かな教育実践を創造するネットワーク形成、以上3点をねらいとしている。

活動：指導力を伸ばすための教育方法演習と採用試験突破のための問題演習を中心に活動している。昨年度は以下の活動をおこなった。なお、共通問題集として時事通信社・内外教育研究会編『教職教養パスライン』時事通信社を準備すること。

体験学習法のカリキュラム作成 ディベート法の実習 高等学校との連携
教職教養・一般教養問題演習 小論文演習 模擬学級活動・ホームルーム演習 集団討論演習
採用試験用模擬授業演習 ケーススタディー

新年度活動：2002年9月28日(土曜日)13時～20時

2002年10月12日(土曜日)13時～20時 以後、原則として第2土曜日の13時～20時。
合宿研修も予定している。

活動場所：生田校舎

応募資格：教職1本であること。月1回の定例会に全日程参加できること。以上2点。

研究室入室までの手順：入室希望者は資格課程窓口(教務課、二部事務課窓口)か、直接小峰の研究室(生田校舎8号館3階8321研究室。出講日は木・金曜日)に申し込んでください。電子メール(BXD03243@nifty.ne.jp)での問い合わせも可能です。後日、小峰が面接を行ないます。

学生代表	科目等履修生	相沢 宏満(2001年3月経済学部経済学科卒業)
スーパーバイザー	商学部助教授	小峰 直史

専修大学の21世紀ビジョン

Socio-Intelligence

社会知性の開発を目指す

「専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力」

「専修大学が創り育てる ”知 ”」それが社会知性です。

平成13年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日	平成14年11月30日
編 集	専修大学 生田校舎 教務課 資格課程係 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1 TEL 044-911-1259 FAX 044-911-1244 神田校舎 教務課・二部事務課 〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8 TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084
U R L	http://www.senshu-u.ac.jp/school/shikaku
印 刷	株式会社 芳文社 〒194-0035 東京都町田市忠生1-18-18 TEL 042-792-3100